2022年３月1日

月刊 もぐら通信

2025年3月1日　第１５３号　初版　http://abekobosplace.blogspot.jp

弱者への愛には、いつも殺意がこめられてゐる

あなたへ：
迷う事のない迷路を通って
あなただけの番地に届きます
電話 042-ABE-KOBO
FAX 042-KOBO-ABE

目次

１ 目次…page ２
２ 記録＆ニュース＆掲示板page ３
３ 巻頭詩（３８）：『孤独より』其の八：安部公房……page ２１
４『都市への回路』論（８）：（８）人間の生理：岩田英哉……page ２２
５　『文章読本』論（１２）：吉行淳之介：岩田英哉……page ３１
６　ＳＦで思考するための本棚（２）：エドガー・アラン・ポー：岩田英哉…page ３２
７　遁走倶楽部（１）：エピチャム語から本邦初の翻訳　S・カルマ氏［翻訳］岩田英哉……page ４３
８　日本一極国家論（続篇）：GAME　CHANGE理論（６）日本国内篇：４.１.３　日本国家核ミサイル保有論/４.１.４　北朝鮮拉致被害者奪還論：岩田英哉……page ５５
９　糞尿と性愛の文学~生殖器・排泄器同一社会論仮説~（３）：１。古事記の中の糞尿と性愛/１．１ 神武初代天皇の皇后（きさき）の出生譚（２）：待て次号：岩田英哉…page
１０　私の本棚（４０）：西村幸祐著『報道しない自由』を読む：岩田英哉…page ５７
１１　ネット・モナド論（２５）：グレートリセットとは何か（３）：ダボス会議の日本国内の手先機関であるpartnership組織とはどれか、人は誰か？：岩田英哉…page ６０
１２　ネット・モナド論（２６）：ジョージ・ソロスの2022/03/11付プロジェクト・シンジケート誌上に発表の寄稿文『ウラジーミル・プーチンと第三次世界大戦のリスク』を読む：岩田英哉…page ６３
１３　ネット・モナド論（２７）：プーチンは何を考へてゐるか：岩田英哉…page ７３
１１　縄文紀元論：Topologyで日本人を読み解く（３２）：５.２.８　鹿島神宮とは何か２：鹿島神宮の位置と東西南北の鳥居の関係について：岩田英哉…page ７５
１２　Topologyで日本の文化を解説する：内なる辺境シリーズ（１２）：扇：岩田英哉…page
１３　編集後記…page ８４
１４　編集方針……page ８５

ニュース＆記録＆掲示板

The best tweets of the month

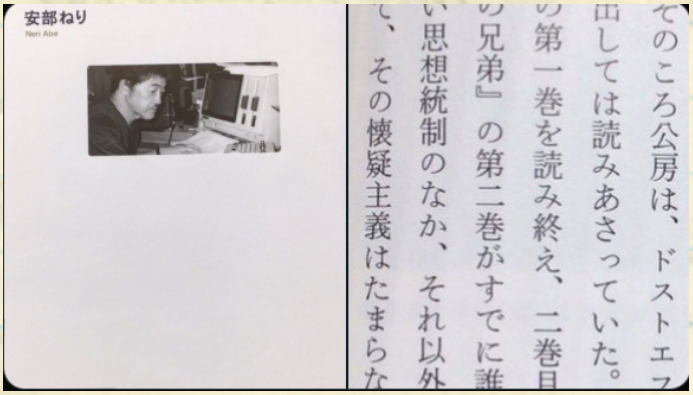
Golden Mole Prize

kou@co2tain·Mar 11
安部公房　箱男かぁ

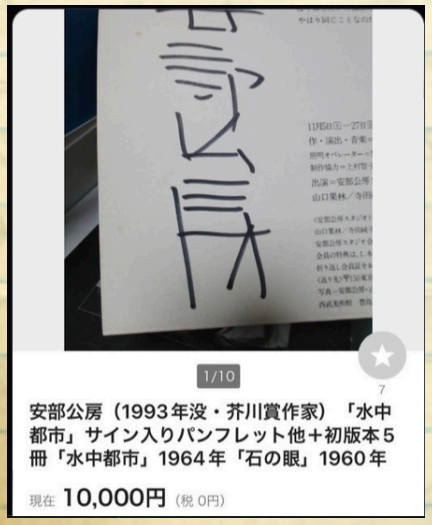
Silver Mole Prize

瑠璃玉蔓@RuriTama_aktk·Mar 16
ディックの後に安部公房は流石に脳がショートしそう

本ノ猪@honnoinosisi555·12h
「真珠湾攻撃のあったその日は、ちょうど『カラマーゾフの兄弟』の第一巻を読み終え、二巻目と交換するために家を出るところだった。公房は『カラマーゾフの兄弟』の第二巻がすでに誰かに借りられてしまってはいないか心配しながら家を出た。」（安部ねり『安部公房伝』新潮社、P40）



今月のサイン
紳士@kasumi_no_kasu·12h
安部公房のサイン好き



今月の上映
書店員芸人カモシダせぶん(本が好きな人用)@kamo_books·Mar 11
『人間椅子vs箱男』
というお芝居を観てきました！江戸川乱歩、安部公房の原作を読んでる人はニヤリとする小ネタも多いし、未読な人は難解だけど強烈な台詞回しを素で味わえます！！
濃厚なんで上映時間1時間でちょうど良かったです！！まだやってますのでご興味ある方是非ー。

今月の安部公房システム・ワークショップ

ホッタタカシ@t_hotta·Mar 11

4/29〜5/1に、元安部公房スタジオの佐藤正文さんが講師を務めるワークショップが、名古屋の七ツ寺共同スタジオで開催されます。

【安部公房のシステムによる演劇ワークショップvol.16】
https://allevents.in/nagoya/200022140979012?ref=eptw

今月の箱男

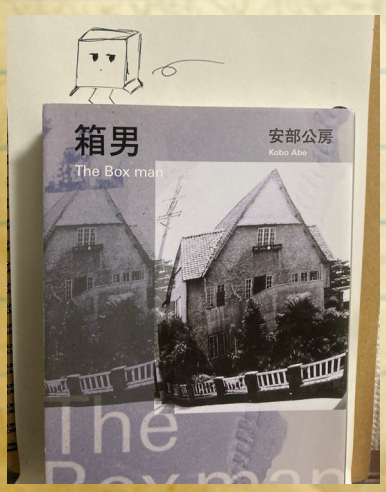
かたびらとばり@katabiratobari·Mar 6

みんな安部公房を読みなよ

膽澤(ヲ)@IsawaSavil·Mar 14

安部公房『箱男』読了

段ボール箱に覗き穴を開けてそれを常に被ったままうろつき回り、箱の中で生活するという「箱男」の話。住みよい箱の作り方などといった箱男の暮らしぶりについて克明に記されているところが結構面白い。中盤から後半の展開がマジでイカれてる　絶対読んだ方がいい



宮崎亀雄　創作専用垢@tomtomclub1999·22h

安部公房『箱男』読了。

安部公房4冊目。作者の癖がわかっているので幾らか楽だった。初めて読む作品に選ぶと混乱してしまうだろう。真偽に記述者と登場人物も立場を変え、倒置法的記述で混乱する。混沌を内と外から観察しているような感覚。よーわからん(´∀`)

山多未（やまだまだ）@ymdmda·Mar 12
中学生の頃、安部公房の『箱男』を読んで、全く意味が分からないまま、もう大学生になりました。
んで今日、10年ぶりくらいに『箱男』を読んだのですが、やっぱりよくわからない。
でも、最後まで読んだから読了なのかな？
（解説サイトをカンニングしてきます）

えぬ・かるま氏の散財@kobo_spitz_2487·Mar 13
安部公房の『箱男』と後藤明生の『挟み撃ち』はどちらも1973年発行か。名作が同じ年に発表されたのね。

lovedrama@lovedrama9·Mar 12
君の名は？的世界観
歩きながら読んでる小説が、安部公房の箱男でテンション上がった。学生時代、よく読んだな。

うたうたいbot@hirari_ktnh·Mar 12
ぼくはもう何度も、彼女を食べる夢を見た。あまり火を通さない、生焼けのうちがいい。彼女は従順で、肉になっても微笑を絶やさず、仔牛と野鳥の中間のような味がして、なんとも言えずいとおしい。彼女に対する情感が煮詰められて、けっきょく食欲に収斂してしまうらしいのだ。
『箱男/安部公房』

社会学・哲学・文学等私的名言bot@siteki_meigen·Mar 11
ぼくが、ぼくではないかもしれないというのに、そうまでしてぼくを生き延びさせる必要がどこにあるのだろう。繰返すようだが箱男は理想的な殺され屋なのだ。　　ー安部公房『箱男』

大竹銀河@Tochigi_PRF_·Mar 14
【安部公房】覗き覗かれる匿名の男たち『箱男』
紹介 https://youtu.be/MPNsmQojCfM @YouTubeより

今月朗読会
道生@nnrrstd·Mar 13
あらすじ朗読劇場「砂の女」安部公房
https://www.youtube.com/watch?v=F4Y0LZzRPqo

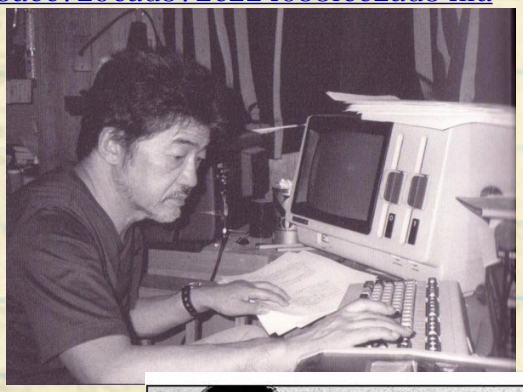
今月の落語家

直子@Entsunagi705·Mar 15
おおお…
“「師匠（兼好）のユーモアが好きで入門しました。これからは新作もやっていきたい。安部公房が好きなので、異次元な感じをいれた新作を作ってみたい」”

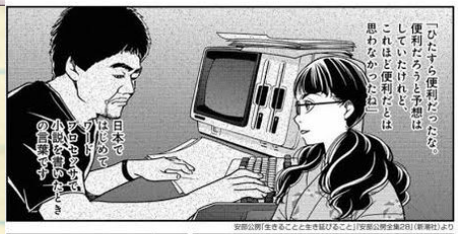
三遊亭兼矢が二ツ目昇進「落語で恩返しをしたい」満員の観客を前に披露口上も(スポーツ報知)
https://news.yahoo.co.jp/articles/3e9af7e7c9aee729ead572e224653fee2ad54ffa

今月のワープロ

愛書家日誌@aishokyo·Mar 7
安部公房の書斎です。ワープロ大きいですね。
#あの人の書斎



フタツキ ◆4lkHH76lHg@madowasareruna·Mar 11
若先生、安部公房になった



安部公房『生きることと生き延びること』『安部公房全集28』(新潮社)より

今月の他人の顔

戸田@koadof134·6h
安部公房の他人の顔、キモいと感じる人にはどこまでもキ
再確認

今月のS・カルマ氏

本ノ猪@honnoinosisi555·12h
「公房は「壁ーS・カルマ氏の犯罪」の原稿を紙袋に入れ月曜書房の編集室を訪れた。当時の思想界におけるリーダー的存在だった評論家にして編集長の花田清輝に向かって、「花田さんに読んでもらいたいと思ってもってきた」と公房は言った」（『安部公房伝』P95）

madeleine@storyforf·Mar 16
ぼくの心は体より十メートルほど先を歩いていたので、もうその椅子に腰を下してほっとしていたのですが、ぼくの体のほうは丁度ドアのところで急にわけの分らぬ変な気分に襲われ立止ってしまいました。
驚いたことに、ぼくの椅子にはもうちゃんと別なぼくが掛けていたのです。
—安部公房「壁—S.カ

こまいぬ@AIkomainu·22h
【壁 (新潮文庫)/安部 公房】を読みたい本に追加 → https://bookmeter.com/books/580836 #bookmeter

今月の手段と目的
ザ・ザ・ザザンボ@chiruchiru_nijz·Mar 14
安部公房が好きすぎて「手段の目的化が」ってすぐ言ってしまうんだけど、このキャラってそうだよねって言われて
アー
ってなった
ナナナナナ〜！

今月対談
eaZ2@nea_exe·Mar 14
安部公房 ・渡邊格　対談完全版
https://www.youtube.com/watch?v=-wnxaqxYIjY

今月の安部よりみ
K's Dee（ケイズ・ディー）🎸歌うロボット工学者・SSWで空想大学『京都観光文化大学』配信@Ks_Dee_info·Mar 16
『色んな本読んでみよう！』（320）
『スフィンクスは笑う』大正13年3月不世出の作家安部公房生誕の二週間後に刊行された実母ヨリミによる生涯唯一の小説。愛憎劇はやがて人間の本質へ迫る。

今月の愛読者

なおっちゃお@sbmswy620·Mar 11
三十数年前の「安部公房」についての卒論
整理中にひょっこり出てきた
読み直してみると結構面白い
でも最後の章は時間がなかったのか飽きたのか
、いただけない
それで教授が最後に「これから安部公房の作品は
世間にどう受け取られていきますかね」と質問
されたのかもしれない
最終章書き加えてみるか

無能の人@a22ur0·Mar 13
砂の女読みたくて、今持ってる安部公房全部引っ
張り出したけど、何故かそれだけ無い…買い直す
ことに

チャメ@myung_dt·Mar 10
自分は20代で安部公房にどっぷり影響を受けて、それを自分の言葉のように使いたがったから、自分の言葉を紡ぐまでかなりかかったと思う。それでも未だに安部公房を超える人生の師は出てきていない。

Diethard🇩🇪🦅@Diethard18·Mar 12
「砂の女」安部公房（岩波文庫)
安部公房の作品はモヤがかかったような人が底なし沼に落ちていくような不思議だが
ゾッとするような作品が多くてよく主人公が失踪したりする
この「砂の女」も奇怪でゾッとするような作品であると思う

DD___word@DD___word·Mar 10
美しい風景が、人間に寛容である必要など、どこにもありはしないのだ。
(安部公房『砂の女』)

今月のニューヨーク公演

Saki Kawamura@sakikawamura__·
いよいよ、卒業公演のシーズンです
NYCにいらっしゃる方で興味がある
方は是非。チケットはタダです。
日本の作品をどうしても持ってきたくて、安部公房の作品持ってきました！

今月の天使

加藤弘一@kato_horagai·3h
「クローズアップ現代」の「埋もれた感染症の“歴史”戦後最大の水際対策」で、コレラ船をとりあげていた。 https://nhk.or.jp/gendai/articles/4645/index.html… コレラ船とは、戦後の引揚げ時にコレラが発生したために、港に留め置かれた船のことである。安部公房が乗った船もコレラ船だった。そのことは「天使」の解説で触れた。

今月の燃えつきた地図

イシヤン@obgSW6SYInOJRVI·Mar 9
『燃えつきた地図 』 #安部公房
冒頭から調査依頼書で始まる。
探偵が失踪した男の妻から手掛かりとして渡されたのが コートの中にあったマッチ箱。
そこから手探りで進めていく。妻の弟の登場から怪しげな感じが…
続く→

kazu@kazu_flyfisher·Mar 12
安部公房『燃えつきた地図』（新潮文庫）を読んだ。『砂の女』『箱男』同様、自己の瓦解や喪失がこの作品でも描かれ、やはり読む者を不安にさせる。だが、読み進むにつれ、その感情が透明感を増す。・・・自分が、本当に、自分で思っているような具合に、存在しているのかどうか・・・
◇2022-3-12◇

リモート母親はじめました@RemoteMother·Mar 15
安部公房「燃え尽きた地図」再読
失踪者を探す興信所員、ネオン街を歩きながら
「この辺を歩いている連中だって一時的な行方不明人みたいなものだな。一生か、数時間かのちがいがあるだけで」

隅 管譜@otonezumi·Mar 9
思い出せない女……手品みたいに、カーテンのひと振りで、顔を消してしまった女……それほど没個性的な顔　『燃えつきた地図』安部公房

今月の読書会

Book with Sofa Butterfly Effect@SofaBook·Mar 11
明日は16時から安部公房『けものたちは故郷をめざす』の読書会です。
https://m.facebook.com/hentekonahon/

本屋B&B@book_and_beer·Mar 10
【来店・リアルタイム配信イベント】3/21 Mon 18:00-
フィクショネス 文学の教室
安部公房『砂の女』を3ヶ月かけてじっくりと読む
https://bb220220-0320a.peatix.com
ドキュメンタルな手法、サスペンスあふれる展開のうちに、人間存在の極限の姿を追求した『砂の女』に迫る3ヶ月になります！

書三代ガクト【小説系Vtuber】@sho3dai_gct·Mar 9
告知！！！
3月26日22時からコラボ読書会。椿ふゆか（@289huyuka）さんをお呼びして、安部公房先生の『壁』を語ります。よしなに〜。
【ゲスト：椿ふゆかさん】『壁』コラボ読書会｜書三代ガクト https://youtu.be/JMZnfGnR6kA

今月の石川淳

石川淳ＢＯＴ@isai_bot·Mar 11
見知らぬ若い人が立つてゐた。そのひとは本が出ましたからと、たつた一言さういつて、わたしに一册の本を手わたすと、つい脊をむけて去らうとした。いかなるひとがいかなる因縁に依つてどこの天から降つて來たのか判然としない。呼びとめて聞けば、それが著者の安部公房君であつた。「安部君の車」

今月の詩人の生涯

pianonaiq@PIANONAIQ·Mar 14
『川本喜八郎 作品集』に収録されてる「詩人の生涯」という安部公房原作の19分の短編は、湯浅譲二氏によるアカデミックで高尚な曲想の劇伴がとんでもない素晴らしさだった… この曲聴くためだけに円盤買ってもよいと思えるくらいに…

今月のカンガルーノート

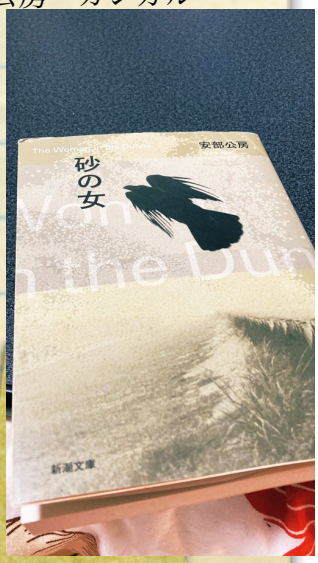
PAPANDA@20年8月からリアルパパ@kaoboonio·Mar 14
#カンガルーノート
安部公房の最後の小説
脛からカイワレ大根生えてくるという突飛な話。
面白そうなのに、何が何やら。

わかる人には分かるのだろう。
ある意味現代美術のような小説。
興味ある人は読んでみるといいと思う。

社会学・哲学・文学等私的名言bot@siteki_meigen·Mar 12
むかし人さらいは 子供たちを探したが すべての迷路に番号がふられ 子供の隠し場所がなくなったので いま人さらいは引退し 子供たちが人さらいを探して歩く いまは子供たちが 人さらいを探している　　ー安部公房『カンガルー・ノート』

死の名言bot@ffwhhros2·Mar 14
「死を遅らせるために、死を早めているのが、文明という預金通帳のやりくりでしょう」 安部公房 『カンガルー・ノート』

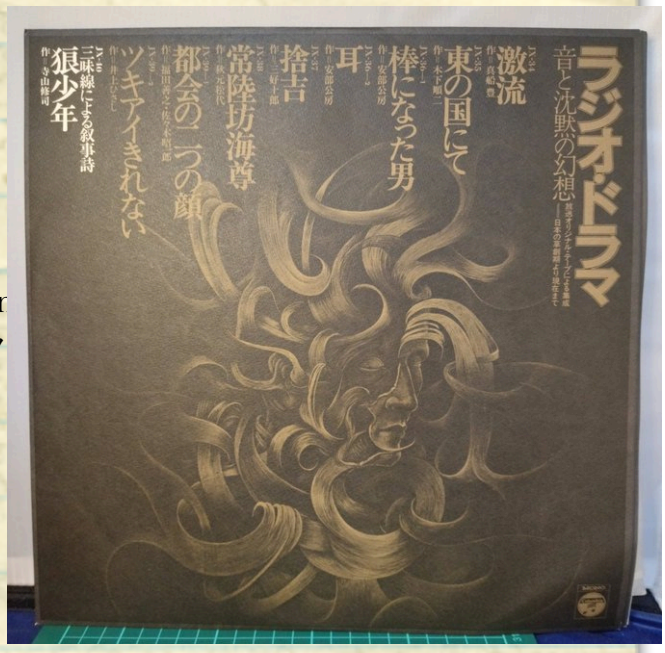
今月の砂の女



Akira.Ikeguchi@outtakesrecords·Mar 13
安部公房はJ・Gバラード読んでる感覚に近い

ホッタタカシ@t_hotta·Mar 9
>私は日本が好きで、今までに三度うかがいました。若い頃に安部公房の小説「砂の女」を読んで興味を持ちました。
【ジョージア映画「金の糸」は日本の伝統技法から着想　90代の監督とレジャバ大使が対談】

https://globe.asahi.com/article/14565417



もりのまさき@morinono·Mar 9
安部公房台本は難しいんだよォ！！！

今月の寺山修司
古本とレコード サルトリイバラ@vinylplar
『ラジオ・ドラマ 音と沈黙の幻想』ボックスセットのはずが外箱なしのバラで販売されていた。寺山修司と安部公房の名前とジャケで購入。

今月の無名詩集
madeleine@storyforf·Mar 12
僕も亦その途を行けるだらうか
球体への涯しない内部の途を
窮め得ぬその面（も）の影にさながら
路標（しるべ）なき存在を泣かぬだらうか
君が差出した一つの結実を
今僕は唯明るい夢の様に怖れる
涙も亦一つの球体ではなかったか

——安部公房「リンゴの実」より

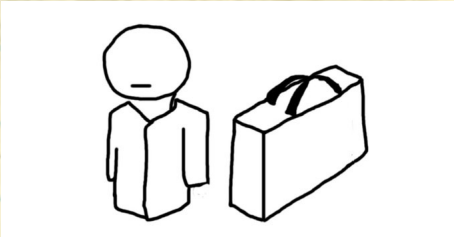
今月の幽霊はここにいる
玉英堂書店@gyokueido8044·1h
【新入荷情報】
「幽霊はここにいる」
安部公房　新潮社　昭46
初版　新装版　装幀・前川直　本冊元セロファン付　函・帯　極美本

今の月S・カルマ氏の犯罪
nakagawa noriaki@tugutugutugu·Mar 12
安部公房「壁」読了。

初期の作品とは思えない完成度。往年の安部作品と寸分も違わない安定のクオリティ。名前を失い、名刺に取って代わられ、唯一の味方も不鮮明となっていく様は現代にも十分通じる物語だ。独特のユーモアとペーソスが彼の作品の価値だと感じる。魔法のチョークと事業も良かった。

今月の鞄

穂麦むぎ@homugi_mugi·Mar 16
「鞄」のアレゴリーは何か〜安部公房著「鞄」の考察〜｜穂麦むぎ #note
https://note.com/homugi_mugi/n/nb828b31e2754



今月方舟さくら丸

PAPANDA@20年8月からリアルパパ@kaoboonio·21h
#方舟さくら丸
砂の女同様、知的好奇心をくすぐられる。
核シェルターという非日常感と
どこかに感じる冒険感。
面白い。
安部公房は、砂の女とこの本で一気に好きになった。

音隅 管譜@otonezumi·Mar 14
「違うんだな。男が結婚詐欺をするときは、医者だとか、地主の息子だとか、会社の役員だとか、職業や財産を餌にするでしょう。でも女の餌は、女じゃない。ぜったい損だと思う。職業を聞かれて、ただ男って答える男はいないけど、女は、ただの女で通用しちゃうんだな」
　ー安部公房『方舟さくら丸』

★★★★☆ 57

清水健史@ArunonShimizu·Mar 10
【レビュー】『方舟さくら丸 (新潮文庫)』 安部公房 https://booklog.jp/users/takeshishimizu/archives/1/4101121222?type=post_social&ref=twitter&state=review… #booklog　読了！

今月の虚妄

❓ 西枇知由 - 京都秘封の予定@24b4644·20h
良い！！！ もう良い！！！
僕の『虚人』なんて読まなくても良い！！ 安部公房の『虚妄』を読んでくれ！！ そっちの方が1000倍面白い！！！ ノーベル文学賞候補だった作家の若き日の文章を噛み締めろみんな！！！

今月の水中都市

wordstacks@wordstacks_bot·Mar 9
「詩的だね。」と思い切って言った。「それは、」と間木は横をむいたまま答えた。
「絵を悪く言うときに使う言葉だ。」
#安部公房『水中都市』

WordStacksは心に響いた名言。はっとした何気ない言葉を共有できる無料＆登録不要の・投稿サービスです。
https://wordstacks.nocebo.jp/posts/337

今月の安部公房論

詩的文学論文bot@shiteki_bungaku·Mar 16
物質と思考の運動：安部公房の「砂の女」におけるシュルレアリスム的技法とその変容(日本語日本文学特集)
https://ci.nii.ac.jp/naid/40006811906

詩的文学論文bot@shiteki_bungaku·20h
安部公房『壁--S・カルマ氏の犯罪』における「ぼく」から「彼」へ
https://ci.nii.ac.jp/naid/40006272201

詩的文学論文bot@shiteki_bungaku·Mar 13
〈中折れ〉してしまう記述者：安部公房『他人の顔』試論
https://ci.nii.ac.jp/naid/110009432959

詩的文学論文bot@shiteki_bungaku·Mar 13
〈おれ〉の〈ユダヤ性〉にみる実存的状況：安部公房『赤い繭』論
https://ci.nii.ac.jp/naid/110000437716

詩的文学論文bot@shiteki_bungaku·Mar 11
鳴り響き続ける「ぼく」：安部公房『カンガルー・ノート』試論
https://ci.nii.ac.jp/naid/120005851876

詩的文学論文bot@shiteki_bungaku·Mar 9
狂気の躍動--安部公房『密会』 (特集 〈精神病院〉の文学)
https://ci.nii.ac.jp/naid/40019027292

詩的文学論文bot@shiteki_bungaku·Mar 10
所有の始原：安部公房「赤い繭」論
https://ci.nii.ac.jp/naid/110007506049

詩的文学論文bot@shiteki_bungaku·Mar 10
安部公房『砂の女』研究--砂の世界への解放
https://ci.nii.ac.jp/naid/40001291768

詩的文学論文bot@shiteki_bungaku·Mar 11
流動と反復--安部公房『砂の女』の時間
https://ci.nii.ac.jp/naid/40006048786

詩的文学論文bot@shiteki_bungaku·Mar 10
安部公房『他人の顔』論：自己疎外と加工された顔
https://ci.nii.ac.jp/naid/120005942791

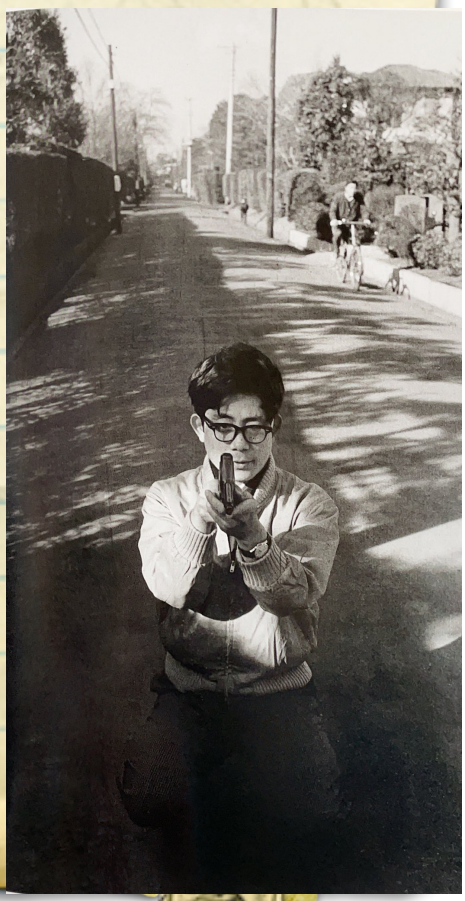
的文学論文bot@shiteki_bungaku·Mar 15
予言=権力：安部公房『第四間氷期』論
https://ci.nii.ac.jp/naid/40019842612

詩的文学論文bot@shiteki_bungaku·Mar 11
〈オブジェ〉達の革命：花田清輝と安部公房「壁：S・カルマ氏の犯罪」
https://ci.nii.ac.jp/naid/120005724052

今月の密会

文学の粋な一節@iki_bungaku·Mar 11
だが、さすがに蘇生科だけのことはあって、男はいまでも四、五日おきに、死んでは生きかえり、死んでは生きかえりしながら、感謝の日々を送っているということだ。

文学の粋な一節@iki_bungaku·Mar 13
ところがその日のうちに、馬人間という副院長の構想を聞き知ってしまったのだ。見通しが悪いというのは、見えないことではなく、目ざわりな物が見えすぎることなのだ。ただでさえ覗きにくかった望遠鏡のレンズに、何色ものペンキを塗りたくられたようなものだった。ー「密会」安部公房



今月大江健三郎

渦巻きぱん@notUZUMAKIgohan·Mar 15
良い画像。餃子を作る安部公房の写真ぐらい良い

今月の飛ぶ男

演劇王子👸✨みうら@演出家 三浦佑介@miurasukeroku·Mar 12
おお、安部公房の世界観(・∀・)！
たのしい✨

新井元 /イラストレーター@araigen_2018·Mar 11
浮男(2022) 浮かぶ男性サラリーマンを描きました。#illustration #procreate #浮男 #flyingman #genarai

今月のけものたちは故郷をめざす

音隅 管譜@otonezumi·Mar 15
夜になると取り残されたものの焦燥が夢になってあらわれた。虫になって地図のうえをさまよう夢や、切符なしに行先のない汽車にのっていく夢などをみた　『けものたちは故郷をめざす』安部公房

今月安部公房作品論集

最安値ナビ@rankingko·Mar 10
最安値の「安部公房『砂の女』作品論集　/クレス出版/石崎等」の価格比較ランキングを更新しました。
最安値は5,230円です。
https://prote2.com/rank/r10002/r12492/r12799/r12800/s139858c5aa52

今月の終りし道の標べに

ひかる（工学趣味・科学趣味）換気中（危ない時間帯）@hiruandon89·Mar 15
記念碑を建てよう。何度でも、繰り返し、故郷の友を殺しつづけるために……。
安部公房　終りし道の標べに　新潮文庫
Quote Tweet
ひかる（工学趣味・科学趣味）換気中（危ない時間帯）
@hiruandon89 · Jun 24, 2021
＞ーー記念碑を建てよう。何度でも、繰り返し、故郷の友を殺しつづけるためにーー…
故郷とは日本でなく満州であった。そして敗戦とは直截に故郷の喪失を意味した。… 2016/06/24
安部公房　終りし道の標べに (新潮文庫 あ 4-11) / 感想・レビュー
https://ddnavi.com/book/4101121117/

madeleine@storyforf·Mar 16
故郷とは、要するに自分の足で踏みかためられた環境の一角の名称にしか過ぎぬのではあるまいか。それもただ、《かく在る》と言い続けるために……。
だがふと《かく在る》のを忘れ去って、外の音に耳をすます。
――安部公房「終わりし道の標べに」

今月のバベルの塔

素クール_bot@su_cool·Mar 10
わたしがいつも微笑んでいるのは安部公房の著書『壁』の中にある『バベルの塔の狸』で“微笑はどんな視線に対しても鉄の防壁となるのだ”という著述があったからだ。決して君のためではないぞ。

今月の死に急ぐ鯨たち

永澤 護 Nagasawa Mamoru/dharmazeroalpha@XlGjfmYpCchopJ6·Mar 10
https://note.com/dharmazeroalpha/n/nea9b146269a3… 「どっちかが生き延びることをゆるされるのなら、#核戦争 も許されてしまう」(p.104－108.)　#核 は今や、それ自身が「偏在する潜在的な力」となった。
生き延びること＝核戦争『死に急ぐ鯨たち』by 安部 公房 9.11以後 予感の実現：
https://note.com/dharmazeroalpha/n/nea9b146269a3

今月のヤマザキマリ

B-WAN@b_bwan·Mar 11
編集者から紹介：ヤマザキマリ 『男性論』 http://wan.or.jp/book/?p=7595 ヤマザキマリさんが、ハドリアヌスからラファエロ、スティーブ・ジョブズ、安部公房まで、確かな技術と空想力をもった古今東西”いい男”たちの魅力を語り尽くします／十七歳で絵画を学びにイタリアへ...
https://wan.or.jp/article/show/1316

今月の椎名林檎

球@kyukyu_4949·4m
たまたま買った安部公房の本よんでたら公然の秘密でてきた
https://music.apple.com/jp/album/公然の秘密/1485676874?i=1485677117

今月の小説を生む発想

大竹銀河@Tochigi_PRF_·Mar 14
安部公房　小説を生む発想　「箱男」について　4.wmv https://youtu.be/5N68d2rX_Tk
@YouTubeより

今月のSF思考

高野敦志@lebleudeciel38·Mar 11
ＳＦ的思考（ePub） https://takanoatsushi.seesaa.net/article/485956066.html…
@lebleudeciel38
より #SF #ジュール・ヴェルヌ #安部公房 #スタニスワフ・レム

今月のデンドロカカリヤ

自炊妖童雨乃（4）@ameno_·Mar 13
@hikagecult
安部公房の
デンドロカカリヤかな？
(ˇωˇ)
Quote Tweet
isasaka@isasasaka· Mar 11
人が人ならざる何かになってたので
見て

もぐら通信第１５２号（第三版）の発行をしました。

https://docdro.id/T7JoQXG

Ｐ９９：縄文紀元論の章節の付番に誤りあり
訂正前：
５.２.５　何故私たちは神前で二礼・二拍手・一礼をするのか？
５.２.７　カミとは何か２：何故カミはカミと呼ばれるのか？
５.２.８　鹿島神宮とは何か
５.２.９　神道と宗教と哲学の関係は如何なるものか

訂正後：
５.２５　何故私たちは神前で二礼・二拍手・一礼をするのか？
５.２７　カミとは何か２：何故カミはカミと呼ばれるのか？
５.２８　鹿島神宮とは何か
５.２９　神道と宗教と哲学の関係は如何なるものか

以下、この訂正に応じて同号の章節の付番を訂正する。

P１２１：縄文紀元論：
訂正前：米穀先物信・用指数取引
訂正後：米穀先物信用・指数取引

https://docdro.id/T7JoQXG

もぐら文学賞第一回募集要領

もぐら通信の創刊号（２０１２年９月３０日）から数へて来月が丁度１０年目です。この１０年の節目を記念して、誠に「時知らず者」の安部公房には申し訳ないが（『中埜肇宛書簡第４信』全集第１巻７８ページ下段）、敢へて小説の募集をします。

１。応募期間：２０２１年９月１日より２０２２年８月３１日まで１年間。発信主義。着信主義ではない。８月３１日付の発信は有効です。
２。送付先メールアドレス：eiya.iwata@gmail.com
３。対象ジャンル：小説
４。小説の長短：
次の安部公房の短編の量の間のいづれかの量：
（１）『赤い繭」の量：最小２０００文字（４００字原稿用紙５枚）
（２）『魔法のチョーク』の量：最大６３００文字（４００字原稿用紙１６枚）
（＊）コントは対象外とします。

５。応募条件：
（１）安部公房の読者
（２）一人何篇でも応募可。応募のたびに名前を変へること可。
（３）年齢：不問
（４）性別：不問
（５）国籍：不問
（６）言語：不問。編集部で日本語に翻訳し、原文とともに掲示します。
（７）提出文書のフォーマット：pdf
（８）かな・漢字：新旧字体不問、正仮名・当用仮名不問

６。応募名：
（１）本名を名乗つてはならない。
（２）安部公房作品の主人公または登場人物の名前を名乗つてはならない。
（３）ネットのハンドル・ネームまたは独自に案出した応募名で可
（４）最も望ましい応募者は国家に登録されてゐない者である

７。選考委員：
（１）もぐら通信の全ての読者
（２）国内外の読者を問はない。

８。作品の公表：
（１）編集部に到着後都度読者に配信します
（２）月毎の配信の号に掲載して応募記録を残します

９。評価方法・評価基準：
（１）安部公房の同社としての選考委員の独自の判定基準に委ねる
（２）採点の範囲は、１点から１０点まで
（３）最終的な判定は、もぐら通信編集員及び発行人が各作品に下す

１０。評価・選考のためのネット選考会月次開催
これは都度案内します

１１。賞金：１０万円
最終受賞者の複数ゐる場合には均等に分割する

１２。将来の展望：
ノーベル文学章の日本円換算１億円以上にします

以上

巻頭詩
（３８）

其の八

安部公房

其の八

笑ひに満ちた泥酔も
濡れた木肌や
又は行きまどふ友の静かな笑みの様に
幸ひであり得た訳を君は語り得るだらうか
君バッカスの徒(と)の
恥らひを恥ぬやさしさ
もしその故のまことならば
語り給へ　まことに
その悦びが孤独の為であつた事を

『都市への回路』論
（８）
人間の生理

岩田英哉

（８）人間の生理

前節で仮説的生理感覚変形論といふべき論を述べたこと い発言に引き続き、インタヴュアーは「生理」あるいは「生理的」という言葉が、安部公房作品を解く上でのキーワードではないかといふ問ひかけをしたことに対して、作家は次のやうに答へる。この場合、私たち読者がいつも例外無く注意すべきことは、安部公房の回答はいつも否定的な面のみに光を当てて言葉にし、肯定的な面を言葉にして決して表現しないといふことです。これは繰り返し言及して来たことですが、十九歳の時の断片的エッセイ『僕は今かうやつて』以来終生変はらぬ、これが安部公房の思考と表現の関係論でした［註１］。
これを、安部公房は何処でしたか太陽を見るに「磨りガラスで見る」［註２］といふいひ方を後年してゐます。また、これが、ここまで来ればお解りでせうが、安部公房の仮説設定の文学の根底にある論理なのです。全集をかうして読むと、安部公房といふ作家は資料上は遅くとも文字の上では十九歳の時には完成してゐたことあ解ります。また、科学的視点から此の論理と文学概念を観れば、これは安部公房の方法論だといつてよいものです。さて、公房の否定的な表現は次のやうなものです。

「生理的というのは、神秘的ではないというだけのことだね。ものごとを神秘化することによって起きる混乱を避けるために可能な限り生理的に還元していく。生理化するということは、共通の言語に立とうということなんだ。」（傍線引用者）

［註１］
１６歳の断片『僕は今こうやつて』には次のHIROSHI OKADA氏のご投稿『安部公房の愛の思想（２）』（もぐら通信第１６号）に次のやうな、後掲の概念連鎖を踏まえた正確な読解があります。
「この頃のエッセイ「〈僕は今こうやっ て〉」においては内面と外面の不可分の関係について考察しています（これについて は前号の贋岩田英哉氏の「１８、１９、２ ０歳の安部公房」に詳しい）が、「内面に ついて言えること」は

「面の接触を見極める事（だけ）なのだ。 努力して外面を見詰め、区別し、そしてそれらを魂と愛の力でゆっくりと削り落して 行く事なのだ。」

と書いています。このことは「魂と愛の 力」こそ内面と外面の接触面を再構成する 基準であることを述べたものとしてとらえ られると思います。

「愛」というものは、一般には内面から出 て対象に向かう心情―最近ではよく贈与と してとらえられる―でありましょうが、安 部公房においては「愛」はすでにこの頃、 そのような一方向へ向かう心情ではなく、 このように存在と精神の接触面を見詰め、 再構成し、彫琢する精神の働きであったと 言えるでしょう。」

私（論者）の「１８、１９、２０歳の安部公房」の解析は次の通りです。

結露を此処でいへば、安部公房は総てを外面とみてこれを否定的に表現するのであり、同時に内面については肯定的に沈黙するといふことです。これが、安部公房の思考論理です。ですから、私たち読者は安部公房の沈黙と余白を読まねばなりません。

「さて、１９歳の安部公房、「僕は今こうやって」を書いた安部公房の話です。

この「僕は今こうやって」の主題は、外面と内面です。

以下、安部公房の言葉に耳を傾けつつ、その言わんとするところを尋ねたいと思います。

「僕は今迄総てを内と外に分けなければ気が済まなかった。勿論内と外に分ける事はこれから先も永久に続く事には異いないけれでも、もっと大きな事があるのを忘れていたのだ。よく考えて見れば僕達が普段内面と言っている様なものは、全て外面から来る想像に過ぎなかったのではないだろうか。」

このような文章を読むと、安部公房という人の発想の型がわかります。通俗的に理解された意味の関係を一端解いて、そうしてそれらの意味を互いに入れ替えるという思考です。

普通、わたしたちは外面というと、何と言う事もなくただ外面と言葉のいうままに思っている。内面というとまたそうである。しかし、安部公房は、内面は外面なのではないだろうかと、正反対のものを結びつけて、それまでの意味の関係をひっくり返してみせるのです。

即ち、外面とは何か、内面とは何かを考えることになります。この問いの立て方が、既に哲学であり、安部公房の思弁的な文体を生み出す土壌となっています。

安部公房の問いの立て方を引用すると、次のような文があります。

（１）「第一、僕達が何時か真剣になって外面の事を考えた事があっただろうか。」

（２）「一体僕達の知り、そして感じ得るものに外面で無いものがあったであろうか。『僕』がと云う事が既にもう外面のしるしだったのではないだろうか。（略）僕達の立つ所総て、僕はそれを外面と呼ぶのだ。」

（３）「では内面は？そうだ、それが問題なのだ。（略）今の所、しかし、僕が其の内面について言える事は唯次の事丈なのだ。つまり面の接触を見極める事なのだ。努力して外面を見詰め、区別し、そしてそれを魂と愛の力でゆっくりと削り落として行く事なのだ。そして特に、僕達が為し得る事は、そして為さねばならぬ事は、その外面を区別し見る事を学ぶと云う事ではないだろうか。」

こうしてこれらの文を読むと、安部公房の思考の質 (quality)が実によくわかります。

それは、世界を面として捉えているということです。そして、それを内と外という視点から見て、内面と外面と呼んでいるということです。この幾何学的な捉え方、そうして、その空間的な形象を内と外という視点からひっくり返してみせること。これは、安部公房が好きな位相幾何学の感覚なのだと思います。しかし、位相幾何学から発想したのではなく、そのような発想があって、詩や小説や数学の理解が生まれたという順序で考えることが正しいことでしょう。

自分自身も含めて外面と考えるという考えは、奇抜です。そうして、更に内面があって、その内面と外面の接触面を注視し、その面のことを思考する。そうして、そのように思考するもう一人の自己がある。これを、２０歳の「詩と詩人（意識と無意識）」では、更に深く考察を進めているのです。

このような１０代の安部公房のものの考え方は、２０代以降に書かれる小説の主人公の思考と意識のあり方に通じていると思います。」（連載第２回『１８歳、１９歳、２０歳の安部公房』もぐら通信第２号）

［註２］
「子午線上の綱渡り」（全集 第２８巻、１０３ページ。６１歳）という 対談で、次のように言っています。

「作品が一つの世界として自立するために は、当然、世界として自立するために必要 な幾つかの条件がみたされなければなりません。テーマも象徴性もそれらの条件の一つでしょう。しかし作家は日常的なディテールを発見するために、そうして作品の 背骨になる真のテーマとは別に、しばしば 既成のテーマを利用することがあります。 それは現実に強力な照明を当てて、隠れている「物」を引き出すための手段です。そ の場合テーマは「物」を位置づけ存在させるための仮説と言っていいかもしれない。 あるいは太陽の黒点を直視するためのススを塗ったガラス板のようなものです。」（傍線引用者）

「太陽の黒点を直視するためのススを塗っ たガラス板のようなもの」という譬喩（ひ ゆ）から、安部公房の仮説は、陰画として の仮説、写真でいうとポジティヴではな く、ネガティヴの仮説、世界を裏側からみ た仮説であることがわかります。これは、 安部公房の発想と、また安部公房の撮影す る写真に通じる仮説です。

この物事を陰画で見るといふ表現は、安部公房の窓に大変関係があります。これについては『もぐら感覚５：窓』（もぐら通信第３号）をご覧下さい。

普通の人ならば「生理化するということは、共通の言語に立とうということなんだ。」とはいはずに、「抽象化するということは、共通の言語に立とうということなんだ。」といふところです。

何故ならば普通に考へれば、共通性といふ抽象概念を共有するためには抽象化が必要だからです。具体的なものごとでは、個別にことがなり過ぎてゐて、共有することができない。共有するとは、できるだけ多くの人と共有するといふ意味です。しかし、安部公房の論理は１８歳の時の論文『問題下降に依る肯定の批判』以来、これも変はらず、具体へと下降しながら、批判といふ抽象的な規順・基準をものごとに当てがつて批判し批評することですから、作家の、それこそ生理的な感覚としては矛盾はないのです。といふよりも、むしろ、この矛盾が生じることを防ぐため、この問題を解決するために、問題（例：お金がないことは問題である）を下に）降ろして来て、生理的な感覚に言葉による表現を与へること（これは本来は抽象的な言語表現であるもの）ができて初めて批判ができるといふ考へなのだと理解することができます。問題下降と１８歳の安部公房はいふのですが、しかし其れはむしろ普通には方向が逆であつて、お金がないといふ問題を解決するための批判は上昇して資本主義批判にまでいくかも知れないことですが、これを安部公房は上昇とはいはずに、下降といふのです。何故なら生理的な感覚の表現にまで落ちなければいけないからです。それ故に、確かに１８歳の論文では、「動かなくてはならない。そして動かさなくてはならない。手を、指を、そして目と鼻を。今こそ君は自由なのだ。」と明言してゐる（全集第１巻、１５ページ上段）これが１９７０年代の安部公房スタジオの生理的感覚に集中することを教へた演技指導理論ニュートラルの原型です。このやうにニュートラルといふ用語の持つ概念（意味の総体）は、１８歳の時以来、自由の問題と分かち難く結びついてゐることが、ここで解ります。といふことは、安部公房の概念連鎖は次のやうになる。

ー問題下降ー生理的感覚ー言語化ー自由ー価値の創造ー

何故最後に価値の創造を付け加へたかといふと、上記引用につづけて同じページの下段に次のやうに、生理感覚と判断との関係で価値の問題を論じてゐるからです。

「今こそ、総ての判断は指で触れ、目で見た上で為されなければならぬ。其の時に始めて総てのものに価値が、一切のものは無価値であると云う判断にすら

価値が生じて来るのである。その日から真の歴史は書かれ始めるのである。その時にこそ、太陽は輝き始めるのであろう。」（全集第１巻、１５ページ下段）

この引用の後では、上記の概念連鎖は次のやうになる。

ー問題下降ー生理的感覚ー言語化ー自由ー判断ー価値の創造ー真の歴史の始まりー

歴史とは人間の歴史に他なりませんから、次のやうにします。

ー問題下降ー生理的感覚ー言語化ー自由ー判断ー価値の創造ー人間の「真の歴史の始まり」ー

と、ここまで来ると、最後の「人間の「真の歴史の始まり」」といふ言葉に、既に後年実存主義をめぐつての安部公房独特の「実存主義的」［註３］発言の芽が此処に出てゐると考へることができます。

［註３］
実存主義批判としてある此の安部公房の一生の哲学である価値論として語られる「新象徴主義哲学」が安部公房がさう世間にいはれることを否定する所謂実存主義なのですが、この「実存主義」とは実は次のやうなものです：

「僕が最初に実存哲学なるものを発見したのは、消えるけゴールやヤスパースやハイデッガーに於いてよりもむしろ、リルケとニーチェに於いてだった。しかし是は勿論実存主義とは名付け得ないかもしれない。とにかく僕は其處から出発した。そして四年間……僕の帰結は、不思議な事に、現代の実存哲学とは一寸異つた実存哲学だつた。僕の哲学（？）を無理に名づければ新象徴主義哲学（存在象徴主ギ）とでも言はうか、やはりオントロギーの上に立つ一種の実践主ギだつた。存在象徴の創造的解釋、それが僕の意志する所だ。

それから、現代のいはいる（原文のママ）実存主ギとは、僕はまるで無縁だ。一口に言ってあの下劣なコッケイさが実存主ギなら僕は反実存主ギだと言はれてもかまは無い。同じく「ハナ」と言つても、花と鼻との相違、いやそれ以上の相違が在ると思ふ。あれは單なる流行主ギだ。」（『中埜肇宛書簡第１０信』全集第１巻、２７０ページ上段）

安部公房独自の此の哲学は、『詩と詩人（意識と無意識）』に詳しい。（全集第１巻、１０４ページ）

また、この独自の哲学について、『中埜肇宛書簡　第１信』（全集第１巻、６８ページ）に次のやうにある。

「僕は、今受動的自己証認に於ける、而してそれにより開示される所の人間の（主観的ー観念以前）特殊性について、又その立場より考査される所の新價値論とも云ふべきものの体系、若しくは方法に思考を集中して居ます。そして晩秋、濡れた地面に降る雪の様に、後から後からと消えて行く思想を、愁しい気持で眺めやつて居ます。」

以上の表だつた言葉の背後にある１０代からの安部公房の思索の内実は、次のやうなものでした。もしこれが実存主義といふならば、確かに「現代のいはいる（原文のママ）実存主ギとは、僕はまるで無縁だ。」といふことが判ります。何故ならば、

安部公房の名付けた新象徴主義哲学といふ此の哲学とは『詩と詩人（意識と無意識）』に拠つて簡潔に言へば、二項対立の両極端の項を否定して、自己喪失による記憶の喪失を代償に（この否定の中に自分自身の否定を、この否定とは自己喪失と記憶喪失と意識喪失のことにほかなりませんが、このやうな否定を含むといふことです）、果てしない垂直方向（時間の存在しない方向）に次元展開を繰り返した果ての究極に観る（自己の反照としての）第三の客観、即ち存在の創造をするといふ方法論でありました。ここで

（１）観ることと
（２）自分自身が存在になることと
（３）存在自体の出現

これら三つが一つになつてゐます［註１］。ここにも３といふ数字があります。

安部公房の、これが創作の秘密であり、一生を貫く創作のための方法論です。これは、コンピュータの基礎であるブール代数による二進数の論理演算の論理によれば、否定論理積といふ論理に当たります。これが、一生の安部公房の生きる論理であり、安部公房の「現代の実存哲学とは一寸異つた実存哲学」であるのです。

［註１］
（１）観ること
これもリルケに学んだ事です。以下中埜肇宛書簡より引用します：

「中埜君、
御變りありませんか。昨日やつと旅行から歸つて参りました。永い旅でした。丁度リルケがロダンから學んだ如く、僕もリルケから「先ず見る事」を學びました。」（『中埜肇宛書簡第５信』全集第１巻、９２ページ）

安部公房の詩に『観る男』といふ詩がある。（全集第１巻、１３３ページ）ここには、既に「明日の新聞」が「書き了へた」「未来の日記」とし出てくる。

また、汎神論的存在論の形象（イメージ）が、後年の海や洪水などに通ずるものとして、次のやうに歌はれてゐる。

「此の果てしない存在にとりかこまれて、あふれ出た透明な涙を両手に受けるのは…… ？唯一未来の日記を書き了へた時に……。」

此の詩には、これ以外にも、転身、沈黙、「僕の中の「僕」」の話法、出発、忘却といふ、安部公房文学にとつて本質的な用語が書かれてゐる。

（２）自分自身が存在になること
「詩人、若しくは作家として生きる事は、やはり僕には宿命的なものです。ペンを捨てて生きるという事は、恐らく僕を無意味な狂人に了らせはしまいかと思います。勿論、僕自身としては、どんな生き方をしても、完全な存在自体――愚かな表現ですけれど――であればよいのですが、唯その為に、僕としては、仕事として制作と言ふ事が必要なのです。これが僕の仕事であり、労働です。」
（『中埜肇宛書簡第８信』（1946年12月23日付）、全集第１巻 １８８ページ下段）」

（３）存在自体の出現
『詩と詩人（意識と無意識）』より引用します。ここでいふ第三の客観こそが、安部公房のすべての主人公の最後に観る究極の存在のことなのです：

「　諸々の声は吾等の魂が夜の本質にふれた所から始まる。それが様々な次元に展開されて言葉となる。それは自己否定＝自己超越の形を以て意識の中に捉えられる。物それ自体、云い代えれば夜の直覚が展開する自体として或種の象徴的予感を産みつける。その中にこそ実存的意義を失わない、客観なる言葉を生み出した本源的な内面的統一に反しない、第三の客観が覗視されるのではないだろうか。
　如何なる表現も主観を通してのみなされ得ると云う事は明かである。主観的体験のみがあらゆる意識を言葉たらしめるのである。そして当然、生存者としての人間各個の内面的展開次元の相異に従って、その言葉の重さ（含まれている次元数）の相異が考えられる。主観はその魂の夜の本質にふれる程度によって様々な重さを持つ。
　では此の主観のつもり行く次元展開の究極は、一体何を意味するのであろうか。その時人間の魂は限りない夜への切迫を体験するのである。夜の直覚は単なる概念ではなくなり、行為・体験・方法の中に現実的な姿を表すのである。そして、此の永遠の距離を以てはるかへだたっている究極を、吾等は第三の客観として定義する事は出来ぬものであろうか。」
（全集第１巻、１０７ページ）」

それでは、残りの肯定表現の反面または半面である「生理化するということは、共通の言語に立とうということなんだ。」と云ふことは何をいつてゐるかといへば、これは上記の「生理的な感覚の表現にまで落ちなければいけな

い」、そして其れを言語化しなければならないといふことに、その心はあるでせう。問題下降による生理的感覚に基づく「共通の言語」の基盤の獲得。この基盤とは、意思疎通の、コミュニケーションの基盤であり、自分から相手に掘り進むのではなく、相手の立場にたつて相手の立場から自分自身に掘り進むと云ふ安部公房の意思疎通論またはコミュニケーション論の、これが共通の言語基盤です［註４］。

［註４］
既に「（５）愛と他者の問題 」（第１５１号）でこの問題についての安部公房の発言がありました。この他者との意思疎通の問題は、安部公房の場合には、愛と分かち難く結びついてゐることも此処で思ひだしませう。

「安部公房のいふ愛とは、安部公房の意思疎通の 論理のことであつて、「他者とのトンネルは、自分のほうからだけ掘っていた んじゃ駄目なんだ。むしろ他者のほうから始めなければいけないという掘り方 のテクニックがある。」といふこの論理の行ふことの難しさを「愛と他者の問 題」としてゐることが解ります。さうすると、安部公房のいふ愛の定義は、

<u>愛の定義</u>
愛とは、他者への愛であつて、自分が他者の身になつて、他者になつた自分が が他者の方から自分へのトンネルを掘り始める技術（テクニック）である。

といふことになります。ここで、私たちは安部公房固有の話法「僕の中の 「僕」」を思ひ出すことになります。この話法の一人称・二人称・三人称の関 係を「『デンドロカカリヤ』論（後篇）」（もぐら通信第５４号）より引用します［引用は省略します］。即ち、一体どうやつて安部公房は他者の身になることができて、他者からトンネルを掘ることができるのか？といふ安部公房文学の秘密の解明を、この話法の問題を解くことで、行つたのでした。」

すると、上記の概念連鎖は次のやうに拡張します。

ー問題下降ー生理的感覚ー言語化ー自由ー判断ー価値の創造ー人間の「真の歴史の始まり」ー他者との意思疎通ー愛ー安部公房固有の話法「僕の中の「僕」」ー

かうして私たちは少しづつ、この『都市への回路』を読み解きながら「安部公房といふ缶詰の缶切り」を手に入れつつあるやうです。

この概念連鎖の「ー問題下降ー生理的感覚ー言語化ー」の例として、『密会』の中に登場する溶骨症の少女と其の「ふとんになった母親」のことを挙げてゐ

ます。何故なら、これらの人間は「もちろんあり得ないけれど、何となく感じで納得できる生理的共通言語」として存在してゐるものだからです。「何となく感じで納得できる生理的共通言語、そのへんに信頼を置く以外に、伝達というのはなかなか苦しいから」だと補足的に説明してゐます。要するに、あり得ない人物の造形といふことを述べてゐるわけですが、これが生理的な水準で創造することができれば、共感を読者を分かちあふことができるわけですから、これがこのまま仮説設定の文学の論理展開上にゐる人間たちとして読者の共感を呼べば、

ー問題下降ー生理的感覚ー言語化ー自由ー判断ー価値の創造ー人間の「真の歴史の始まり」ー他者との意思疎通ー愛ー安部公房固有の話法「僕の中の「僕」」ー

この青字にした概念（主題と言つても良い）の安部公房文学の核心に「ー問題下降ー生理的感覚ー言語化ー」は、そのまま連なつてゐることが納得されます。この連鎖がやはり問題下降によるものであることを、作者は次のやうに、この節の終はりに、下降を沈めるといふ言葉に置き換へて、述べてゐるからです。

「既成の合言葉や身分証明書が通用しない場所で、共有である言葉を捜そうと思えば、どうしえも概念からイメジネーション、イマジネーションからさらに生理的な裏付けというところに、だんだんと表現を沈めていかざるを得ないでしょう。」（傍線引用者）

この抽象概念と生理感覚の首尾一貫性を、最後に作者は「言語による反言語的表現というか、反言語による言語的表現というか……。」と、上記で私の指摘した正反対の方向の上下の矛盾の言語表現上の解決について、その通りに述べてゐるわけです。この一見理屈では矛盾する問題を生理的に解決するのが、次の節で安部公房特有の文体の問題として論ぜられる直喩（シミリ・simili）といふ公房好みの譬喩（ひゆ）なのです。

（９）安部公房の文体と直喩「～ような」

（続く）

『文章読本』論

（１２）

吉行淳之介

岩田英哉

待て次号

SFで思考するための本棚
（２）
エドガー・アラン・ポー

安部公房の好きな人はみなエドガー・アラン・ポーが好きだらう。ポーの好きな人は、しかし、からなずしも安部公房の読者とは限らないだらう。何故なら、ポーの文学のいろいろな側面には、SF（『アーサー・ゴードン・ピムの冒険』）の他に、ゴシック・ロマンス（『アッシャー家の崩壊』）、推理小説,（『モルグ街の殺人』『黄金虫』）、ホラー小説（『黒猫』） とあつて、ポーは近代小説の型の様々な種類の創始者であるので［註１］、必ずしもこれらのポーの一面の好きなことが、これはそのままいつもSF文学としての安部公房の文学への通路となるとは限らないからです。後者の文学の読者が前者の文学の読者であるのは、やはりこれはコーボー用語でいへば、仮説設定の文学だからで、さて、かういふわけで、これが二人の共有する文学観であるからだといふ結論が最初に来てしまふことになります。といふわけで、あなたが仮説設定の文学を共有する読者であるならば、私の最初の一行の断定は否定することができます。

［註１］
この分類は、アメリカ文学者の巽孝之氏（慶應義塾大学名誉教授）が、NHKのEテレの「１００分de名著」といふ番組用に今年３月放送用教科書として『エドガー・アラン・ポー　スペシャル』と題した教科書を編んで下さつてゐて、これがポーの文学に関する優れた入門書になつてゐますので、この中の分類を拝借したものでっす。

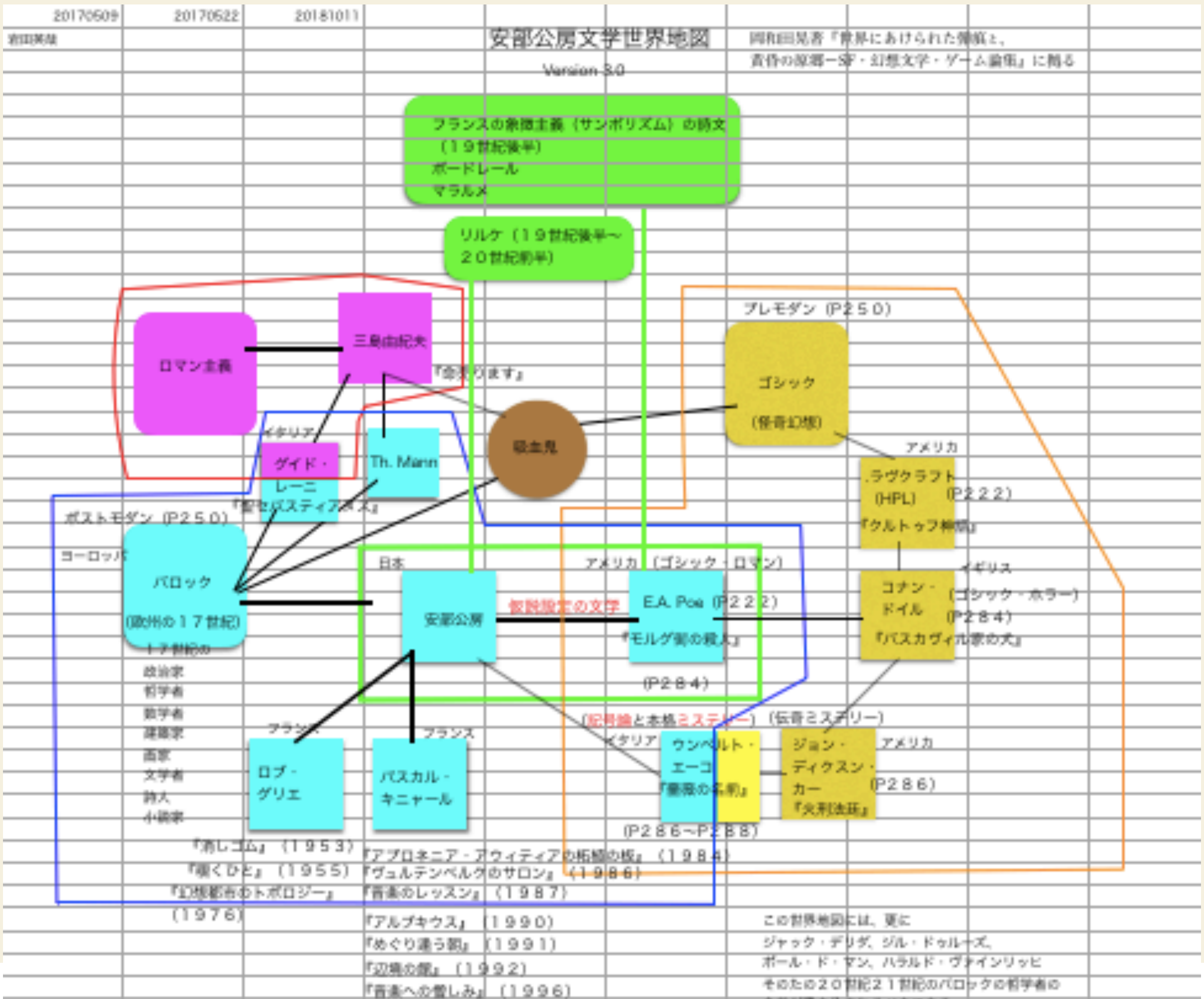
しかし、このやうに考へてみれば、上記に挙げたポー創始の小説範疇はみな仮説設定の文学に違ひなく、といふのはこれらの範疇はみな奇想天外の話ばかりだからですから、結局安部公房の読者がポーとの関係で自分の好みを知るといふことは、コーボー文学の上記範疇のどれが自分の好みであるかを知るといふことになるのでせう。私の（５）を追加して、全体を箇条書きに再掲すれば、

（１）SF小説（『アーサー・ゴードン・ピムの冒険』）
（２）ゴシック・ロマンス（『アッシャー家の崩壊』）
（３）推理小説,（『モルグ街の殺人』『黄金虫』）
（４）ホラー小説（『黒猫』）
（５）恋愛小説（『砂の女』『アッシャー家の崩壊』）

ポーを近代欧米文学史上の位置はSFの始祖といふことになりますので、この位置にポーと作品の名前を入れた「米英仏独墺日・SF比較文学年表(v3)」を作成しました。ダウンロードは：https://docdro.id/WmqyZJ1

	年代	発表年	アメリカSF	イギリスSF	フランスSF	ドイツSF
	2022/01/28, 03/11 eiya iwata					米英仏独墺日・SF比較文
	年代	発表年	アメリカSF	イギリスSF	フランスSF	ドイツSF
１９世紀	1800	1832-1849	エドガー・アラン・ポー『ハンス・プファールの無類の冒険』『ナンタケット島出身のアーサー・ゴードン・ピムの物語』その他			
		1866-1919			ジュール・ヴェルヌ『驚異の旅』	
		1871				クルト・ラスヴィッツ（「ドイツSFの父」）短編小説のコレクション発表［『驚異の旅』の影響を受ける］
		1897				クルト・ラスヴィッツ『２つの惑星にて』
	1920					
		1921				ハンス・ドミニク『３の持つ力』
世界最初のSF誌創刊		1926	『アメージング』誌創刊			

また、わたしたち安部公房の読者としては、同時に世界文学地図の上でのポーとコーボーの関係を確認してをきませう。「安部公房文学世界地図 (v3)」を再掲します。ダウンロードは：https://docdro.id/KM5FoCv



以下『安部公房の変形能力２：エドガー・アラン・ポー』（もぐら通信第４号）より全文を引用して、安部公房とポーの文学を、仮説設定の文学の視点から、再度理解を新たにしたい。

「仮説を立て、それに忠実に従って、小説を構築すること。これは、詩でも小説でも、ポーの創作の原理なので、安部公房も、これは、本性のままに、このまま自分のものとしたということになります。

安部公房の文学も、仮説設定の文学です。

２００３年に東京世田谷文学館で開催された安部公房展の図録で、サイデンステッカー氏が、その「安部文学の本質」という寄稿の中で、記憶の中から引き出した安部公房の印象深い発言として、次のように言っています（安部公房展図録。世田谷文学館。２００３年。６４－６５ページ）。

「私の書くものをほとんどの評論家はカフカばりと決めつける。せめて一人ぐらいは、キャロルかポーに比較してくれないものかと思う。あの二人、つまり十九世紀の英国人と同じく十九世紀の米国人を私は本当の先輩と認めている。

安部先生の発言は大方このようなものであった。」

そうして、サイデンステッカー氏の最後の一行。

「ポーのことは後回しにしよう。安部文学への影響は、キャロルほどはっきりしていないと思う。」

しかし、安部文学へのポーの影響ははっきりしているのです。それは、仮説をたて、その仮説に従って小説を書くということ、その原理は、ポーも安部公房も変わりはない。（安部公房を発見した埴谷雄高もまた、その「死霊」において不可能性の文学、即ち仮説設定の文学者でした。）

ポーは「構成の原理」という題の詩論を書いています。そうして、自分の「鴉」という題の詩が、世間が詩人に期待するような霊感によって書かれるのでは全然なく、詩というものが、如何に最後の一行から最初の一行に向かって、逆算して、効果を考えて書かれたかを、実に論理的に論じています。

ポーの小説の書き方もまた同じでした。その奇妙で怪奇な小説は、ひとつの仮説の上に展開された言語藝術です。このことから、全く新しい小説の分野、即ち探偵小説が生まれました。

ポーの「モルグ街の殺人」という探偵小説に典型的なように、仮説設定の文学とは、不可能事を設定して（例えば、密室殺人事件）、これが可能であると断じて、決然と話しを展開するのです。

また、そのほかにも主人公のオランダ人が 債権者に追われた余り、気球に乗って月の世界へ逃れ、そこから月の人間に親書をロッテルダム市に託して届ける「ハンス・プファアルの冒険」という奇譚、今でいうならばSF小説というべき作品も同様です。

実際にポーがその原理の通りに作品をものしたのでしょうか？

大事なことは、その作者の意志が、ひとつの原理、ひとつの方程式によって森羅万象の動きと在り方を説明しようとする、アイン シュタインと同じ性質の意志であるというこ となのです。

（ポーの作品はどれもこれも不可思議な、 奇妙な、怪奇な、突飛な、現実には有り得な い、空想の、腰を抜かすような、そのような話ばかりです。もしあなたが安部公房の読者であるならば、是非ポーの作品を一度お読み 下さい。そこに、安部公房を見つけることが できるでしょう。実は、わたしはポーが大好きなのです。それ故、筆が滑らぬうちに、こ れらの言葉をこの括弧の中に入れて、ポーそのものについての話を控え、安部公房の話に戻ることに致します。）

さて、安部公房にしてみると、ポーの考えはそもそもの自分の考えだということでしょ う。それは、数学者の、科学者の考え方です。いや、勿論、言語という、宇宙の機能の精華を用いる真の文学者の考え方です。

ポーの影響を敢えて言えば、余りに安部公房の考え方に同じであったので、それが 眼に見えないほどだ、ということになるで しょう。その結果、「安部文学への影響は、キャロルほどはっきりしていないと」 思われる程になっているということです。

「錨なき方舟の時代」（全集第２７巻１ ７０ページ。６０歳）という対談で、小説を書くと意識せずに書いた「終りし道の標 べに」の後、小説を意識して書くようになった小説は「けものたちは故郷をめざ す」ではないかと問われて、安部公房は次のように言っています。

「ぼくにも小説への志向はあったんだよ、ずうっと子供の頃から……。実存主義にひかれるようになる以前、中学生の頃からだな。ポーが好きで、ああいう面白いでたらめを創ってみたいとかねがね思っていたことは事実なんだよ。それが地下水みたいに、いまもどこかを流れているような気がする。」

「箱男」脱稿前後の講演を今YouTubeで聴くことができます。これを聴くと、安部公房 は、これは仮説なんだと何度もいいながら、いや話そうかな、話すと仮説だから実につまらないんだと何度もいいながら話を始め、その躊躇で聴衆を笑わせてから、ブラックジャックという凶器の話をして、小説のテーマがあって小説を書くのではないということに関する暗示的な話をしたあとに、上野公園の乞食の取り締りを取材にいった話をし、そうして警察署の廊下にひとりだけ箱を被ったままの乞食がいる話をして、いつのまにか聞き手は安部公房の世界に引き入れられてしまいます。

警察署の廊下に箱を被った乞食がひとりだけいたというところは、もう安部公房の 創作なのだと思いますし、そう考えれば、 安部公房が上野公園に住む乞食の取り締りを取材にいったかどうかも怪しくなります。

しかし、それはそれでいいのです。問題は、このような巧みな語り口が、仮説設定の上で成り立っているということです。こ れが安部公房の文学の特徴のひとつです。

これは、ポーを読んだ１０代の安部公房には、安部公房のものの考え方からいっても、極く自然に自分のものとなしたと思われます。

１９６２年（３８歳）に安部公房は「SFの流行について」（全集第１６巻、３７６ ページ）と題したエッセイ（評論）を書いています。その二つ目の章は「仮説の素材としての科学」と題されていて、ポーが仮説の文学の典型として論ぜられています。 そうして、その章の最後に次のように言っています。

「日常性とは、言い換えれば、仮説を持たない認識だともいえるだろう。いや、仮説はあるのだが、現象的な事実と癒着してしまって、すでにその機能を失ってしまっているのだ。そこに、あらたな仮説をもちこめば、日常性はたちまち安定を失って、異様な形相をとりはじめる。日常は活性化さ れ、対象化されて、あなたの意識を強くゆさぶらずにはおかないはずである。

ポーの気球も、大渦も、しゃべる心臓 も、けっきょくはその仮説にほかならなかったのだ。科学は目的ではなく、仮説を形象化するための、素材にすぎなかったわけである。

なにも、ポーにかぎらず、一般にSFを、 仮説の文学だと考えても差しつかえないのではあるまいか？」

更に、このエッセイの最後の章「SF的発想の再認識を」の最後で次のよう

に、ポーについて語って、エッセイを締めくくっています。

「さて、こうしてふりかえってみると、仮説の設定を、方法として自覚的にとりあげたという点で、近代SFの始祖は、探偵小説の場合と同じく、やはり、ポーにつきるように思われるのだ。ポーの方法を、形式の点でも― 純化、もしくは俗化の、程度の差はあれ―かなり忠実に受けついだ、ガー ネット、コリア、サキ、ダール、ブラッドベリ、シェクレイなど、だれかが「奇妙な味」と名づけた、あの一群の短編作家たちならずとも、直接、間接に、ポーの影響をうけなかった現代作家は、まずいないといっても、いいすぎではないのではあるまいか。

そろそろ、芸術至上主義者などという固定観念にはとらわれずに、ポーの再評価をこころもみてもいい時期にさしかかっているように思われるのだが……。

SFの流行も、これを仮説精神の回復とみるならば、単なる現象をこえた、文学の本質にかかわる問題であるはずだ。」

以下、安部公房の対談集「死に急ぐ鯨たち」（新潮社刊）や全集の中の仮説に関する安部公房の言説を読むままに、順不同で、安部公房が中学生の時に理解し、胸に抱いたポー像が、晩年に至るまで変わらな いことを例として挙げることに致します。

「破滅と再生２」（全集第２８巻、２５ ８ページ。６１歳）に、「飛ぶ少年」という小説の話をしていて、次のように言うところがあります。

「……もともと僕の作品には大きく二つ の系列があるんだよ。だいたい長編の場合 には、最近やや日常の断片を集積するタイプのものが多かったけど、短編の場合は、 むしろ非現実的な変形物が多いんだ。ファ ンタジーというより、自分じゃ仮説的リアリズムのつもりだけどね。スプーン曲げを信じないことと、作品の中で登場人物に空中遊泳させることとは、僕のなかではなんら矛盾するものではないんだ。小説の場合、言語の構造としての確かな手触りが成り立てば、それは現実と等価な世界なんじゃないか。言葉でしか創れない世界……なぜ飛んだか、なぜ飛べたのかの説明を、小説の外の世界から借りてくる必要なんかぜんぜんないと思う。」

ここで安部公房が言っている仮説的リアリズムと呼んでいる現実、言語構造として 確かな手触り、触覚のある、現実と等価な世界。ここでは、短編についてそうだと 言っているように見えますが、その前の文 の「～けど」とあるのを見

ると、長編についてもそうであると実は考えているのを読み取ることができます。

　ここにおいて、安部公房の考えは、後年賞賛を惜しまなかったエリアス・カネッティの小説観と全く同じです。それは、小説が第２の現実であり、この今わたしたちのいると思っている現実と等価であるという考え方です。カネッティは、その一連の自伝的な小説群の中で、安部公房の小説観と同じことを述べています。

　また、「「明日の新聞」を読む」（全集 第２８巻、２９４ページ。１９８６年。６２歳）という対談で、インタビュアーの 「安部さんの小説の登場人物たちは、いつ も穴の中に特別な関心を示しますね。洞窟にもぐったり、箱をかぶったり、砂の穴に閉じ込められたり……しかもその穴は単なる舞台装置にとどまらず、登場人物と同等な役割を与えられている。」と話を向けられて、安部公房は次のように言っています。

　「たしかに僕の小説は、たとえば地下の採石場のような、閉鎖された空間を舞台にして展開する場合が多い。（略）たぶん閉鎖空間にしたほうが、状況を透視しやすいせいでしょう。つまり閉鎖空間が仮説の役割をはたしてくれるのです。」

　更にまた、「子午線上の綱渡り」（全集 第２８巻、１０３ページ。６１歳）という対談で、次のように言っています。

「作品が一つの世界として自立するためには、当然、世界として自立するために必要な幾つかの条件がみたされなければなりません。テーマも象徴性もそれらの条件の一つでしょう。しかし作家は日常的なディテールを発見するために、そうして作品の 背骨になる真のテーマとは別に、しばしば既成のテーマを利用することがあります。 それは現実に強力な照明を当てて、隠れている「物」を引き出すための手段です。その場合テーマは「物」を位置づけ存在させるための仮説と言っていいかもしれない。 あるいは太陽の黒点を直視するためのススを塗ったガラス板のようなものです。」

「太陽の黒点を直視するためのススを塗っ たガラス板のようなもの」という譬喩（ひ ゆ）から、安部公房の仮説は、陰画として の仮説、写真でいうとポジティヴではな く、ネガティヴの仮説、世界を裏側からみた仮説であることがわかります。これは、 安部公房の発想と、また安部公房の撮影する写真に通じる仮説です。

世界を裏側からみるとは、すべてを逆しまにすること、転倒させること、ひっくり返すこと、逆にしてものをみること、白を黒として黒を白としてみることです。それは、時間との関係では、現在から未来をみるのではなく（ほとんどの人間の発想は、これ）、未来から逆算して現在をみる（例えば、「第四間氷期」）ということを意味しています。そうして、時間もひとつがあるのではなく、複数の次元の中にぞれぞれ並行的に存在しているということをも。

１０代の安部公房に、既にひっくり返してものを考える独自の発想のあること、それを究極の次元変換として言語の問題として論じて、２０歳で既に一定の回答を得ていることは、贋岩田英哉さんが「１８歳、１９歳、２０歳の安部公房」で解釈して論じている通りです。ご興味のある方は、もぐら通信第２号（https://docdro.id/3Hdls3G）及び第３号（https://docdro.id/vmZWbzJ）の該当記事をご覧下さい。

全集の第７巻（７７ページ）に「仮説•冬眠型結晶模様」（１９５７年。３３歳）という変形についてのエッセイがあります。

このエッセイは安部公房が東欧を旅した見聞録「東欧を行く―ハンガリア問題背景」と題されたエッセイ集の中にあるエッセイのひとつです。ここで、安部公房は東欧の厳しく長い冬に生きる農民に思いを馳せ、冬という変化のない長い時間の中での、人間と道具についての考察を書いています。

冬の時間の中で、農民は夏の時間の労働 の刻印を、その生活の中にある様々な道具に刻む。労働はしないが、労働のリズムを 道具達に刻み込むのだと言っています。そうして、その刻印が二つ並ぶと、「するともう無意味な偶然ということではなくなり」、「新しい自分で成長する力を持った法則が誕生したの」だと説いています。その二つの刻印から生まれた「細かい連続模様は、そんな具合にして成長した、冬眠中の労働の結晶なのでした。」

そうして、この法則的な成長を結晶作用によるものと呼び、この冬眠型の結晶模様は「生活をつつむ空間の隅々にまでおよび ます。」そして、これらその法則に従って自己成長する生活の模様を、夏の時間の 「農民労働のリズムが空間に落とした影だった」と言うのです。そうしてこう続け ます。

「ガラスが結晶体と非結晶体の中間物であ るように、単なる結晶ではない変形

物が現 れたわけです。（略）生活がリズムを持つ以上その影は、変形に変形を重ねながらも、わたしたちのまわりを歩き続けている らしいのです。」

ここに書いあるのは、安部公房の創作現場の実感であると思われます。特に、ふたつの生活の刻印から影たる一つの細胞が生まれ、それが自己増殖性を以て成長して行き、ひとつの有機的な全体になるということは、安部公房の創作の現実と実感を、譬喩ではなく、率直に語っています。

作者の意志を離れて成長する、作品の自己増殖性とは、もぐら感覚のひとつなのです。

そのような自らの意志のある、単なる結晶ではない変形物が、わたしたちの周囲にはたくさんあるという。

冬という季節といい、それを冬眠型と名付けるところは、このエッセイの書かれた １９５７年（３３歳）という時期からいっても、安部公房の深く受容したリルケの姿があります。そこは、時間の無い空間的な世界です。そうして、そのような世界で、 生活にある二つのものの刻印からひとつの変形物が生まれるのです。

わたしは敢えて座標軸を３つにして立てましたが、この題名が示すようにポー（仮説、変形）とニーチェ（夏と冬の労働の生活）リルケ（影、空間、冬眠）が、この エッセイの中に一緒にいるように、安部公房の意識の中では、この三者は渾然一体となっております。３つの座標軸は、そのようにご理解下さい。

また、安部公房はそのものずばりの題名 で「仮説の文学」（１９６１年。３７歳） という題名のエッセイを書いています（全 集第１５巻。２３７ページ）。

ここでは、安部公房は、科学（合理）と妖怪（非合理）の間を論じながら、仮説の文学はこのふたつの間にある鵺（ぬえ）のような 日常とその日常信仰の破壊者であると喝破しています。そうして、仮説の文学は、

「むしろギリシャの古典文学、たとえばルキアノスの『本当の話』などから、すでに脈々とつづいている、仮説の文学の伝統、『ガリヴァー旅行記』『ドン・キホーテ』『西遊記』等々と、枚挙にいとまもない、大きな文学の流れの一つのあらわれにほかならないの だ。仮説を設定することによって、日常のもつ安定の

仮面をはぎとり、現実をあたらしい 照明でてらし出す反逆と挑戦の文学伝統の、 今日的表現にほからないのである。

　見方によれば、この仮説の文学の伝統は、 自然主義文学などよりは、はるかに大きな文学の本流であり、根元的なものであり、 （略）何か本質的な意味をもっているのではあるまいか。それは、（略）むしろ崩壊しつつある、この日常の秩序の反映であるように思われてならないのだが。」

と言っております。

次回は、１０代の安部公房がニーチェを如 何に変形させ「曲げ」たかについて、安部公 房の言葉に耳を傾けつつ、論じたいと思います。」

最後に、巽先生の『エドガー・アラン・ポー　スペシャル』の中から、両方の読者である同氏の指摘、即ちポーと安部公房の文学の共通項についての指摘を引用して此の章を終りにしたい。一つは、余白のこと（このことは引用から明らかなやうにメタ・フィクションへ、メタSFへと一直線に繋がつてゐる）、二つ目は、ポーの『ウイリアム・ウイルソン』が安部公房の『他人の顔』に与へた影響についてです。引用中『アーサー・ゴードン・ピム』は『ピム』と呼ばれてゐます。

（１）余白のこと
「真っ白なページの彼方へ

　　（略）
『ピム』の登場人物たちが、特に物語の後半で漂流を繰り返し、さまざまな致命的危機に見舞われるのは、この回の最初に述べたように、まさしくポーその人が執筆途中でホワイト社長の逆鱗に触れ、同誌編集長をクビになってる事実のためだったかもしれません。物語はあたかも経帷子（きょうかたびら）をまとった純白の巨大な人影が、登場人物たちを作品の表面から消し去ろうとする。それに対応するように、ホワイト氏はポーをクビにし、かくして『ピム』の結末には、以後書かれざるページの白さ（ホワイトネス）ばかりが残るというわけです。
　こうした余白の白さについては、フランスの前衛小説ヌーヴォーロマンの運動を代表する作家・批評家ジャン・リカルドゥーが「ページの彼方への旅」とみなしました。大団円に収束する「白」のイメージを「書物のページの白さ」とするもので、二十世紀後半にはそうした解釈が説得力を持っていました。『ピム』という小説自体が、真っ白なページの中へ飲み込まれていったのだという読み方です。つまり書くことそのものに関する喩え話として、この小説を捉えるのです。

　さらに、この未完成で謎めいた結末は批評家のみならず、作家たちにも大きな刺激を与えることになります。」と此の箇所の終はりに書いて、その次の段落では、影響を受けた作家の代表的な例として、フランスのジュール・ヴェルヌの名前と作品を挙げてをります。

（２）『ウイリアム・ウイルソン』と『他人の顔』
「戦後日本を代表する実存主義作家・安部公房も、少年時代にポーの小説を読み漁っています。『箱男』（一九七三年）は都市の匿名性を極限まで推し進め、覗くことを主題化した都市遊歩者小説の系譜に連なるでしょう。また分身（ドッペルゲンガー）をモチーフにしたポーの小説『ウイリアム・ウイルソン』（一八三九年）の影響が『他人の顔』（一九六四年）に現れています。
　安部を尊敬してやまないノーベル文学賞作家・大江健三郎の『藹（らふ）たしアナベル・リイ　総毛立ち身まかりつ』（二〇〇七年、文庫版改題『美しいアナベル・リイ』にしても、ポー最晩年の詩『アナベル・リー』のみならず、ナボコフの『ロリータ』に想を得た作品でした。」

このあと名の挙げられてゐる藝術家たちは、フランスの作曲家ドビュッシー、ニューヨークのミュージシャン、ルー・リード、美術ではイギリスのオーブリー・ビアズリー、ベルギーの画家ルネ・マグリット、チェコを代表するアニメーション・映像作家ヤン・シュヴァンクマイエルです。

ここまで書いて来て思ひ出しましたが、ポーに『Marginalia』（マルジナリア）といふ作品があります。お読みになつては如何でせうか。マルジナリアとは、安部公房ならば、周辺飛行といふことです。箱男のいふ余白への落書きといふことです。これは一つの精神です。ネットで検索すると、ボルティモアのポー愛好者の団体が、Edgar Allan Poe — “Marginalia”といふウエッブページを設けてゐて、ここで、その大部分のものは『US Magazine and Democratic Review』に連載されたコラムだといふことが判ります：https://www.eapoe.org/works/info/pmmar.htm
和訳は、この落書きが表だつた名前で出てゐるのは、吉田健一訳で中公文庫から『赤い死の舞踏会-付・覚書(マルジナリア)』が出てゐます。

遁走倶楽部

（１）

エピチャム語から本邦初の翻訳

作者　S・カルマ氏

翻訳　岩田英哉

目次

01_デアンダール岩の祝祭
02_カフェ・セラピオンの読書会
03_町の地図（或いは幕の内弁当に関する考察）
04_虚体祭
05_堂宇の殺人
06_コギト革命
07_ほとさらい
08_黄金の時代精神亭での酩酊
09_書記の部屋

＊＊＊

第１章　デアンダール岩の祝祭

この町について話すなら、人間の話よりも、岩についての話の方が、面白いだらう。

この港町には奇岩があつて、一年に一回住民の記憶に思ひ出される岩があるのだ。

それは、八月の満月のときに、いつも海岸の同じ位置に、気がつくと姿を現し、月の欠けるうちに、いつとはなく姿を隠してしまふ。その前後は、町人に忘却されるので、岩が存在してゐても、それが人々の眼に映ることはない。始めも終りもない不思議な岩である。

その奇岩の名前は、デンデロデール岩と言つたか、又はデアンダール岩といつたか。どちらが正しいのか。どうやら、前者のやうであるが、まだ本当には確かめたことがない。

その奇岩が見事なので、住民は、山の方からも、町中からも集まつて来て、夏の夜を海風に吹かれながら、潮の満ち引きの透明な韻律にこころを漂はせながら、ただただ岩を鑑賞するのである。中には弁当持参のものもゐて、家族で来る連中などは、莫蓙を敷いて、弁当をひろげ、静かに酒を飲んでは、横になり、眠ることなく、デンデロデール岩を飽かず、魅入られたように眺めてゐる。

この町にはSandWitchesといふ名前のサンドイッチ屋がある。砂の魔女。海岸のそばの、丁度デンデロデール岩を見晴らすことのできる対岸と言つていい位置に店を構へてゐるので、そこのテラスに坐つて、ぼうつとしながら、砂の魔女といふ名前のサンドイッチ、食べ易く切つた鰊（にしん）の身にころもをつけて軽く揚げ醤油に浸たしたものにレタスを載せた奇態なサンドイッチを頬ばりながら、少し遠目にその岩を眺める人々で、この時期、この店は賑わうのだ。

町のある海岸からデアンダール岩をひとしきり眺めてから、桟橋から船に乗つて目の前の島に渡り、そこからデンデロデール岩の後ろ姿を眺めるのが乙だといふ者がいて、それは夏の消閑にも合つた趣向といふことになつたようで、住民の間に広まり、連絡船が定期便で出て、陸側の桟橋と中の島の桟橋の間を１時間に２本の頻度で往復をしてゐる。この短い往復を楽しみにしてゐる者も多いのである。

中の島から見るデアンダール岩の姿が後ろ姿なのかどうかといふことは、この町のひとたちの積年の議論の種であり、郷土史家も巻き込んで、それは後ろではないといふ否定派と、いやそれは後ろであるといふ肯定派と、二手に分かれて、この時期議論が喧（かまびす）しい。不思議なことは、誰もこの岩の前面についての議論をしないといふことであり、これがこの岩についての不思議のひとつになつてゐる。しかし、町人はだれもそれを意識しないのであるから、不思議にもならない不思議といふ、誠に不思議な話になつてゐる次第だ。

夜目には、湾の上にかかる満月が煌々と照つてゐて、中の島の建物群とその向こうの対岸の建物群の白が密集してみえる。それは、恰も骸骨の白い骨を彫り込んで製作したミニチュアの家々の、白骨（しらほね）の家々のようにみえる。稠密に彫られて、よく出来てゐる象牙のミニチュアだ。

そのような視界の周辺に、神々しきデアンダール岩が現れてゐるさまは圧巻である。

何故わたしだけが、この岩のことを忘れずにて、いつも覚えてゐるのだらう。わたしは、もとは漁師であつて、海に出て嵐に遭い、船が流されてこの土地に漂着したといふ気が頻りにする。自分は漂着した漁師だといふ思ひを払拭することができない。わたしは、attachmentだといふ感覚が、折に触れ、わたしの中にふと湧いて出て、そのときに、これも不図海辺に目をやると、他の住民が忘れてゐるのに、わたしにはデンデロデール岩の姿が目に入るのだ。いや、デアンダール岩がわたしを見てゐるといふ方がよいのかも知れない。そのときは、八月なのだらうか。わたしとこの岩との関係だけに、八月がやつて来てゐ

るのだらうか。季節外れに、わたしはこの岩をみることができるのだ。だれも、このわたしの能力を知る者はいない。わたしだけの祝祭である、そのときは。

しかし、今宵は、町人とデンデロデール岩の存在を共有する喜びで、海辺へと小路を抜ける足取りも軽い。

わたしの今晩の予定は、まづSandWichesに行つて、砂の魔女をテラスで食し、腹ごしらえをして、そこでしばらくぼうつとしてから、船に乗つて中の島へ渡り、デアンダール岩の後ろ姿を嘆賞してから対岸に戻り、海辺沿いに歩いて岩まで行つて、デンデロデール岩を拝み、帰り道すがら参詣の人ごみに混じつて夜店を冷やかしてから、山の手にある住処（すみか）に戻らうといふのである。

デアンダール岩は、見る位置によつて、その姿を変える。ある場所から見ると、ジュゴンが机に突つ伏してゐるように見える。別の場所から見ると、男性の一物が屹立してゐるように見える。口の悪い、エロスを好む者たちは、女性も含めて、この姿を勃起岩と呼んでゐる。また、別の場所から見ると、女陰に見えるといふ。この姿の岩を愛好する者は、文字通りに恥も外聞もなく、ホト岩と呼んでゐる。月が煌々と照つてゐる。山の中腹にある吾が家に向かふ途次、象牙に彫られた白骨の住宅街を通つてゐると、時間の蝶番を外してくれないか、といふ声が聞こえた。目をやると、飾り窓の中に、宙に浮いて飾られてゐる道化師の操り人形だつた。

第二章　カフェ･セラピオンの読書会

《時間の蝶番を外してくれないか》と、道化師がいつた。

カフェ・セラピオンの扉を開けて外に出ると、夏だ。灼熱の暑さと光の連続的な爆裂がわたしを襲ふ。これが、朱夏か。朱夏を氷の中に封じ込めたいと、わたしは思つた。

不思議な空間だった。そこでは、デアンダール岩の祝祭日から数へて時間が逆転して流れてゐる。

扉を開けて、建物の中に入ると、どんな場合でも、初めて足を入れたものにとつては何かしら、初めての場所だといふことから問と答の関係が始まる、閾を跨ぐとは、さういうことだのに、しかし、どうも、さういふ印象はない。さう

だとしたら、こんな経験は初めてだ。ドアを開け、敷居を跨ぎ、その中に入つて、そんな関係のない世界を経験して、またかうして外に出て来ることができるとは。

といふことは、まだ、わたしは何も知らないし、何も知らされてゐないのだ。一体、何についてだ？

眼の前を、青い牛の背に乗った老子が、箸を使い、幕の内弁当を食べながら、通って行く。

何だこれは、と思っていると、わたしは、また、今まで居た筈の、あのカフェ・セラピオンの奥まった一室に、テーブルを前に坐っているのだった。何だこれは。

鏡の王が言った、時間が来たようでもあり、来ないようでもあるし、全員が揃ったようでもあり、揃わないようでもあるので、絶好の機会である、それでは、そろそろ読書会を終りから始めることにしようか。これにて、虚体祭を散開する！、と鏡の王は宣言して、読書会が始まった。

今日という日は、遥か昔に、三輪與志が虚体となった記念日である。課題の図書は、言うまでもなく、三輪與志著『自同律の考究』。

『自同律の考究』は、全部で４巻からなっている。第１巻と第３巻は、認識論、第２巻と第４巻は存在論という巻立てである。その第１巻の開巻第一行目が、あの有名な「存在が思惟するときのひそやかな囁きを聞こう。」、さうして第二行はこれも有名な「それはそこに自身を見出し得ない呻きではないのか。」という一行である。虚体といふ存在しない筈の存在の囁きをどうやつて聞くのだ？どうやら祭りはまだ始まつてはゐないやうであつた。私といふ何かが虚体になつて何かを祝ふこと、それが虚体祭なのであらうか。出席者は次の者たちであつた。私の座つた席から右手に反時計廻りに恰も時間が無為になるかのやうに座つてゐるのは、老子、ソクラテス、釈迦、そして此のセラピオン倶楽部の主宰者は本来はS・カルマ氏なのであるが、同氏は砂漠の中に失踪中故に代理として一番末弟のS・カルゴ氏である。各自へ届いた此の倶楽部第三回の開催への招待状が、それぞれの前、卓（テーブル）の上に、右の空のワイン・グラス（多分これから葡萄酒が注がれるのであらう）と左の小さな半球の器（誰からも中身を見ることができないのであつた）の間に、置かれてゐた。三輪與

志から赤い薔薇の花束が届いていて、卓（テーブル）の上、真ん中にある。この大柄な花束のお蔭で、花を挟んで相対する者同士は顔を見ることができない。さうして今、出席者の着席して初めて読むことになる招待状を全員揃つて初めて此処で読み始めてゐるところであつた。あたなも此の席に透明人間として参加したければ同じものは此処で入手できやう：『セラピン倶楽部への招待状』：https://docdro.id/F5P1tLj

《時間の蝶番を外してくれないか》と言ひながら、巨きな蝸牛（かたつむり）が部屋に入つて来た。S・カルゴ氏である。老子もソクラテスも釈迦も、かくいふ私もみな、時間の蝶番を外した。老子は思つた。何だこいつ、俺様の青牛よりもデカイ奴だな。ソクラテスは思つた。何だ馬ぢやあないのか。釈迦は思つた。何だ未だ料理されてゐないのか、調理「以前」の私だな。私は思つた。何てS・カルマ氏に全く似てゐない奴なんだ、マとゴの一文字違ひだけで、こんなにマゴマゴしてしまふほどに違ひのあるとは、ゴマスリが通用するものか、あとで試してみよう。

S・カルゴ氏には口がなかつたのに言葉が発せられて聞こえるのが不思議だ。どうやら目玉は、その二つの角の先に付いてゐるやうだつた。さうして多分、声は二つの角の間からか、その角の下にあつて足の役目を果たして体を支へてゐると思しき二枚の薄い肉の間の空間から聞こえて来るもののやうである。

S・カルゴ氏が卓に座つて、咳払ひを一つした。もう一つした。三つ目をしようとした時に、釈迦が尋ねた。一体仏の顔も三度までといひましてな。あなた、三度目の正直とも言ひますので、どうかこれから何をするのかをおつしやつて戴きたい。では、申し上げる。まづ『自同律の考究』の第五章を開いて下さい。さうして、《時間の蝶番を外してくれないか》といふや、出席者はみな、さうした。さうして、全４巻の中身を読み終えたので、かうして読書会は終つた。卓も消え、老子も青い牛の背に乗つて瞬時に不在となり、ソクラテスはいつの間にかアテネの牢獄へと戻り、釈迦は沙弥山に帰り、私は扉の蝶番を外してふと後をみやると、赤い薔薇の花の投げ入れだけが宙に浮いてゐた。薔薇の赤い色の放つ爆風といふべき風に吹き飛ばされて、私はまたカフェ・セラピオンの外に、さう、あの道化師の操り人形の前にガラス一枚を隔てて立つてゐた。と、人形が話しかけた。私と入れ替はつてくれないか。私は道化師の人形と入れ替はつた。私は飾り窓の中に人形の私として立ち、道化師は私となつて、また緩やかな山手の坂道を歩き始めると、向かうから、若い男女が睦まじく歩いて来るのとすれ違つたが、男が安壽子と呼びかけるのが聞こえたので振り向いてみると、早や二人の影はなく、坂の上から眺める八月の夜空、象牙に彫刻された一つ一体の町の上に輝く星辰の中に一際輝きの際立つてゐるアンドロメダ星雲の渦巻が見知らぬ宇宙船のやうに天に止まつてゐるのでした。私は

いつの間にやら、かう一人ごちているのでした。

《時間の蝶番を外してくれないか》

第三章　町の地図（或いは幕の内弁当に関する考察）

この港町の名前は、リューベルク。

この町は、一個の国である。国が町の中に入っており、町が国の中に収まっている。この町は、昔々、ひとつの呪文から生まれた。誰かが、何かが、ある呪文を唱えると、忽然とall of sudenに生まれた町であるのだ。だから、この町には時間が存在してゐない。さう、さうして、従ひ、わたしがこの港町を愛しているのは、それが一個の純粋な空間だからだ。構造がむき出しになってゐるような廃墟の町なのだ。ひとは生きてゐるのだが、生きてゐないのだ。時間は流れてゐるやうであるが、実際には流れてゐないのだと思はれる。寒山、拾得といふ双子の兄弟がゐる。この子供たちは奇矯な振る舞ひで有名な双子で、それ故に街の中で会はうとするが、いつもなかなか会へないといふことが、そのことを示してゐるのではないかと思ふ。だから、この酷く突出した双子が代表してゐるやうに、街を歩く人たちは互ひにすれ違ひながら実はすれ違つてゐるのではない。だから、あの一度すれ違つた若い男女も、さうだつたのではないが故に、夜の星空に宇宙船のやうに止まつてゐるアンドロメダ星雲の中の星の一つに住んでゐると、私には確信できるのだ。

町中でチラシを配っている若者あり。そのチラシに、オータム・フェアなどと書いてあるのをみて、その男は、ヘルプストと言へと怒鳴つて通り過ぎる。その次にもまた、ヘルプストと言へとまた、同じチラシを目にすると怒鳴つていふ。してみると、歩きながら既に季節は夏から秋に転じたらしい。

朱夏が蝋燭のやうに溶けて立つてゐる。溶けて溶けた代はりに其のまま蝸牛になつて、蝸牛が立つてゐる　S・カルゴ氏であつた、私の眼の前に立つてゐたのは。

「やあ、與志さん、お久しぶりです。お変はりなく。」
「ええ、この調子では、いつものことですが、なかなか山の上の家にまで辿りつけませんよ。」
「そりやあ、あなたは與志さんだからです。虚体との戦ひは、これからですぜ。頑張つておくれやす。」
おかしな奴だと與志は思つた。ずつと俺の後をついて来やがる。乗つてくか

い？とS・カルゴ氏は言つた。ああ、お願ひだと私は言つた。蝸牛の背中は居心地がよくて、そのままふかふかした感触のせいか眠り込んでしまつた。気がつくと家の中であつた。

S・カルゴ氏「喉が渇きました。スコツチでもやりませうぜ。」といひながら、何故か勝手知つたる我が家といはむばかりに厨房へ行き、冷蔵庫からBowMoreを持つて来て、二つのショット・グラスに注ぎ、一つを私に差し出した。うめええなああ、とカタツムリは言つた。それは、うめええだらう、２６００年の年代物だ。

S・カルゴ氏「さつきのカフェ・セラピオンで時計の反対廻りに読書をしたのがいけなかつたんだな。時計の針が未来に飛んで、２６００年前の過去に戻つてしまつた。誰かが時間変形器を持つて入つてゐたに違ひない。一体、そいつは誰だ？」
與志：「僕ぢやあ、ない。とすると、老子かソクラテスか釈迦に違ひない。」
S・カルゴ氏「うむ、ソクラテスが一番怪しいな。時間を変形させて死刑を免れようとしたのかも知れない。さうだ、２６００年といふ時間の長さが丁度その時期に見合つてゐやしないか？」
與志「うむ、ソクラテスが犯人だとしても、もはやカフェ・セラピオンに来たことで牢獄からの脱出は完成してゐるからには、なるほど、さうか、老子か釈迦かといふことになるのではないか？岸博士。」
岸博士「ゲダンケン・エクスペリメント！、思考実験！をしては如何か、與志君」
與志「はて、一体どのやうに」
岸博士「『死霊』の第一章で、君は黒川健吉のところで『存在と本質』と題した書物を手に取つたのではなかつたか。如何。そこには何が書いてあつた？」
與志「……青虫（カタピラー）もまだ寝られない……」
岸博士「ほら、ご覧、やはりさうではないか。『不思議の国のアリス』のあの青虫、さう、水パイプで煙草を吸つてゐるあいつだ。確かにあいつは起きてゐたぞ。」
與志「さう、さうして、アリスを口説いてゐたな。」
S・カルゴ氏「さう、さう、あいつの言葉は煙のやうにモクモクファームだつた。」
與志「ファームだ？」
S・カルゴ氏「ああ、ファームだ。」
岸博士「さうだ。確かに、ファームだつた。」
S・カルゴ氏「よし、それでは、リューベルクの外部へと脱出することができるぞ、さうするぞ。用意は良いかね、諸君。」

岸博士がまづ肯（う）べなつた。次いで私はBowMoreを口の中に放り込んでから、YESと発声した。

（と、舞台は暗転して、リューベルクの外部、海辺の砂浜の上に三人はゐたのである。）

……青虫（カタピラー）もまだ寝られない……

S・ダルマ「與志君、存在と本質の関係だがね、僕も考へてみたんだが、結局この二つの概念の間を繋ぐ中間項が必要だと解つたんだ。それが実存といふ概念です。」
與志「なるほど、それでは、実存は本質に先立つといふことですね。」
S・ダルマ「その通り。僕もさう思ふのだ。埴谷さんはなんて言つてるんだい？」
與志「埴谷さんは余り実存といふ言葉は、さういへば、使はないなあ。いつも存在と本質の二つで思考してゐる御様子。といふことは、存在の中に現存在も含まれてゐると考へてゐるのでせう。さう、だから埴谷さんの世界には結局時間が存在してゐない。現在といふ時間が欠落してゐるんだ。あるいは空間が時間を包摂してゐるんだな」
S・ダルマ「……青虫（カタピラー）もまだ寝られない……」
與志「え？」
S・ダルマ「……青虫（カタピラー）もまだ寝られない……」
與志「カタピラーは青虫の姿をしてさう呼ばれてゐるが、実はこれは不思議の国にある転生輪廻の姿を表してゐる形象なのだな。なるほど、よくわかりました。戦車のカタピラー、青虫のあのくにゃくにゃと動くあの姿体。いや、待てよ、あの水煙草の器具のあの道管のことをでも言つてゐるのかな？それとも煙草を吸ひすぎて永遠に中途半端な状態にゐて寝られないからか、それとも……」
老子「やつと、そこまで来たか、與志君」
與志「あ」
老子「ん。そもそも不眠の生き物がゐるのぢやよ、與志君、それが青虫ぢや。だから、……青虫（カタピラー）もまだ寝られない……とは、絶えず眠る努力をしてゐても寝られぬカタピラーのことを意味してゐるのだ」
與志「それでは、あのキチガイお茶会の眠りネズミの正反対の生き物ですね。さうか、これで一対だ。この両極端の間を振り子みたいに左右に揺れてゐる永遠に揺れてゐる存在、即ち運動エネルギーを位置エネルギーに、位置エネルギーを運動エネルギーに変換して止まぬ、これが永久振り子ですね。到頭、永久運動創造機械が出来たのですね。素晴らしい」
老子「あ。垂直方向にな」

與志「ん」
S・ダルマ「空間が時間を包摂してゐるんだな」
老子「といふことは、その空間は何か別の空間の変位したものだといふことであり、別の何かが、あるいは、変形して空間になつたといふことであり、その別の何かが時間であつても一向に差し支へがないのぢやよ」
S・カルゴ「何か今にも恰も戦争が外部からリューベルクを襲つて来るかのやうな気がする」
S・ダルマ「やあ、兄弟、久しぶりだなあ」
S・カルゴ「やあ、兄さん、久しぶりだなあ。天童山をいつ降りたんですか？」
S・ダルマ「ああ、さつきね。道元禅師と一緒に宇宙船「正法眼蔵号」にのつて筑波山宇宙空港に帰還したところだ。楽しい旅だつたぞ。途中でたくさんの禅問答の掛け合ひをして、公案の謎かけごつこをしたのぢや」
S・カルゴ「たとへば、どんな公案ですか？」
S・ダルマ「たとへば、乳繰り合ふも多少の縁とは、これ如何に。とかな。」
S・カルゴ「それは、まさかバストの大きさ次第だといふのではないでせうね？」
S・ダルマ「違ふな。キンタマの大小によるのぢや」
S・カルゴ「兄者よ、問ふ！乳繰り合ふも多少の縁とは、これ如何に。とかな。」
S・ダルマ「竿の長短によるのおおお、ふっふっふっふっふ……ふっふっふっふっふ……」
S・カルゴ「兄者よ、問ふ！乳繰り合ふ相手も男である場合には一体どうするのですか？如何に、如何に、如何に」
S・ダルマ「その時は、面壁九年ぢや」
S・カルゴ「桃栗三年、柿八年、Sのダルマは面壁九年」
S・ダルマ「接して漏らさず、悟りを開くのわづか三秒」
S・カルゴ「発射！」
老子「ほら、空間変位が始まつたぞ。中間項がむくむくと大きくなり始めたな……地震ぢや、it comes!」

……青虫（カタピラー）もまだ寝られない……
……青虫（カタピラー）もまだ寝られない……
……青虫（カタピラー）もまだ寝られない……

といふ呪文が繰り返し海辺を洗つた。見よ、大波が次々と押し寄せて来るではないか。全て実存の中に飲み込まれて行くのか？と、誰の耳にも囁くかのごとくに、至近に、《時間の蝶番を外してくれないか》と、道化師のいふ声が三度聞こえた。……青虫（カタピラー）もまだ寝られない……道化師はまだ宙吊りのままであつたのだ。誰が一体道化師を助けるのか。その救ひ主はお前しかゐ

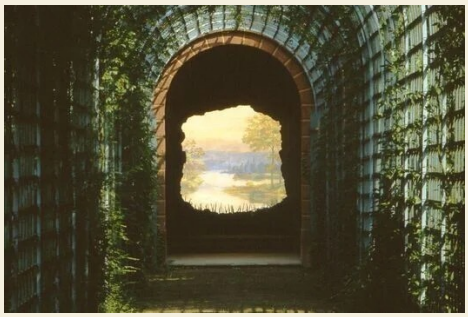
ないのだ、與志よ。

與志「あ。ん。」

かうして宇宙が開かれ、宇宙が閉ぢると、巨大なカタツムリが波の中から立ち上がつて、Bow more!と叫び声を上げると、都市への回路が開き、そして巨大カタツムリの大海に沈むに連れて、ゆつくりと閉ぢた。何故ならば、人々が謙虚になつたからである。Bow More!といふ声の残響が町の空に響き渡つた。さうして、町の名前が変つた。

この都市の名前は、そこで再び、ニューベルクといふのである。そして、ここが世界の果てであることを誰も知らない。そして世界の果てには次の次元へと続くトンネルがあるものだ。

第四章　虚体祭



このトンネルを潜ると、そこは騙し絵の世界だつた。Pfui!と笛の音が一瞬鳴ると、ここが世界の果てであることを私は知つた。奇態だ、と誰かが隣で呟いた。稀代だらう、稀代の詐欺師のことだらうと私は独りごちた。何故なら、ここは絵画の中であつたからである。さうして、私は額縁の内部の絵の中にとらへられてゐて、四方の額のヘリが山のやに立つてゐる向かうが見えなかつた。

私はいつの間にかマネキンのY子の手を引いて、穴の外にゐるのだつた。天を仰ぐと、真つ赤な空に二頭の象が浮いて歩いてゐるのでした。二頭の背中には堂宇が一つづつそれぞれに乗つてゐら。何だあれは、と私は思ひましたが、二頭はしづしづと細長い脚、それはまるで柳の枝のやうな脚で、細竹でさへもああではないであらうといふやうな儚い四本の脚で、たゆたうやうにお互ひにむかつて歩いて行くのでした。地平はるかには、朝が明けるのか、日が沈むのか、遠い山並みがうつすらと見える稜線に黄色光が満ちてゐるのです。ここはどこなのかしら、とマネキンのY子はいひました。絵の中だよ、絵の中に決まつてゐる。と、私は答へましたが、確信が実はありませんでした。といひますのは、さうやつて歩きながら直ぐ前に白い馬のやうな形をした生き物が死体なのか生きてゐるのか不明の様子で横たはり、背中には馬の鞍であるかと思はれ

る時計が、ぐにやりとなつて載つてゐたからです。私はその軟体動物の太い胴腹に両手をまはして持ち上げ、その時計の柔らかな鞍の上に跨ると、鞭を一つ当てたところ、馬もどきの軟体動物馬はシャンとして立ち上がり、しかし脚も足もない様子で、地面に擦るやうに歩くものですから、おや、これは何か誰かに似てゐると思つた瞬間に、この生き物がS・カルゴ氏であることを思ひ出したのです。

S・カルゴ「いやあ、よく来たね」
私「何がなんだかよくわからないよ」
S・カルゴ「Y子さんは、もう先に行つてしまつたよ」
私「どこへだい？」
S・カルゴ「地獄さ」
私「また地獄へ行つたのか。一体今度は何と呼ばれる何地獄何だい？僕も一緒に行かなくちや」
S・カルゴ「あそこの食卓に蜂の群れ集まつた蜂蜜pizzaがあるから、あれを食してから参らう。案内して進ぜよう」
私「それはかたじけない」
S・カルゴ「生きた蜂が私の口の中をぶんぶん飛んで五月蝿いY。きつとこれはY子の蜜壺の蜜の味だぜ、兄弟」
私「そんなのわかるもんか。どこで知つたのさ」
S・カルゴ「ふふふふふ、実は仕事のひけた後のオフィスでな、ふふふふふ、良いことをしたこと二度三度」
私「わたしたことが、Pfui!、ハチミツ煎餅の味だY子。きつと助けてやるぞ、待つてろよ、どこの地獄か知らないが」
S・カルゴ「ふふふふふ、蜜壺地獄さ、言つただらう」
私「その蜜壺の蜜の中に我が身を漬けて、身を沈めれば、私は地獄へ行けるのだらうか。その蜜壺がY子の胎内への入り口なのであらうか」
S・カルゴ「その通りである。さう行ふ御前を「愛の神兵」となづけよう」
私「愛の神兵？」
S・カルゴ「さうさ、それが虚体の別名なのだ」

（作者：ここで遂にあの『自同律の考究』で言及されてゐた虚体が一体何かが明かされましたことは誠に驚きです）

さうか、それ故にである、あの高い塔のやうな二頭の象であつたのだな。宙にたゆたふ。そして、あの背なの堂宇の中に私は閉ぢこめられてゐたのだな。そして、そこから身を投げた……死んだ……否、虚体となり愛の神兵となつた。それならば、あの堂宇の内部に何故いつの間に転移したのか？

S・カルゴ「知りたいか？」

私「知りたい」
S・カルゴ「それでは、あとで後悔めさるなよ。あの時お前は既に死んでゐたといふ話をして聞かせよう。愛の神兵になる「以前」のお前の話である、いつの間にか堂宇の内部に閉ぢこめられたお前の話だ」

と、S・カルゴ氏は、次の話を始めたのである。

第五章　堂宇の殺人

（続く）

日本一極国家論（続篇）
GAME CHANGE理論
（５）

岩田英哉

目次

１。前編
２。後編
３。GAME CHANGE理論
（１）古いゲーム・ルール：アメリカと中国の共通性
（２）古いゲーム・ルール２：アメリカのゲーム・ルール：一般論
①文化：無制限の大衆化・通俗化文化：「いつでも・どこでも・誰にでも」（例：コカコーラ、ジーンズ、コンビニエンス・ストア、クレジット・カード、ディズニーランド等々）
②政治：自作自演の詐欺的言辞を弄する：世界普遍性を欠いたアメリカ土着の民主主義の他国への、謀略（自作自演）と軍事力を使つた強制
③経済：道徳を欠いた国際金融資本主義、いはゆるグローバリズムといふ名前の共産主義経済の他国への謀略（自作自演）と軍事力を使つた強制

新ゲーム・ルール
対アメリカ帝国：
（１）新ゲーム・ルール１（アメリカ帝国向け）：一般論
（２）新ゲーム・ルール１.１（アメリカ帝国向け）：個別論
①文化領域
②政治領域
③経済領域

対中華帝国：
（３）新ゲーム・ルール２（中華帝国向け）：一般論
①支那とは何か中国とは何か
②中国の経済の構造
③中国の政治の構造
（４）新ゲーム・ルール２.１（中華帝国向け）：個別論

対ロシア帝国：
（５）新ゲーム・ルール３（ロシア帝国むけ）：一般論
（６）新ゲーム・ルール３.１（ロシア帝国むけ）：個別論

［対ロシア帝国］の中身は2022/0312現在未定］

４。GAME CHANGE理論（日本篇）
４.１.１　国民にとつて理想の政府とは何か
４.１.２　現行日本国憲法無効化論
４.１.３　日本国家核ミサイル保有論
４.１.４　北朝鮮拉致被害者奪還論
４.１.５　日本駐留米軍退散論
４.１.６　日本中央銀行廃止論
４.１.７　尖閣諸島問題解決論
４.１.８　竹島及び北方領土奪還論
４.１.９　国体明象論（国体明徴論ではない）
４.１.１０　国制明象論（国制明徴論ではない）

４.１.３　日本国家核ミサイル保有論

待て次号

私の本棚

（４０）

西村幸祐著『報道しない自由』を読む

岩田英哉

神は細部に宿るといふ格言は、文筆を生業とするものの真理であつた。しかし、今日のマス・メディアはこの真理を進んで裏切り、悪魔が細部に宿るといふ所業をなして来たわけであるが、遂にその悪業がネツト・メディアの登場で隠し果（おほ）すことができなくなつて、どんな弁解も言ひ訳も仮面も通用しなくなつたので到頭主張しはじめた立派な題目が此の本の題名にまでなつてしまつた「報道しない自由」です。マス・メディアには「報道しない自由」が、このメディアが２０世紀初に歴史に登場して以来あるのだといふ自身の歴史を、さすがお手のものなり、捏造したのが、この主張なのである。

従ひ、この「報道しない自由」にも悪が細部に宿つてゐる。その悪事を細部に亘つて暴いたのが、この本です。それは次のやうな悪事である。と悪事の数々を列挙する前に、このやうに情報の洪水を整理すると溺れずに済むといふお話をしてから悪事・悪人・悪党の話に参りたい。それは次のやうに二階層に分けて事実をみるといふことです。

（１）論理層
（２）物理層

論理層といふのは文字通りの論理の世界で、論理の上にデジタルの通信網が載つてゐて、その上にインターネットが載り、その上に俗にいふYahoo!やSNSなどのプラットフォームが載り、あなたは通信をし動画を見または配信し、コメントを投稿し、ブログを書いてゐる。問題は此処にも「報道しない自由」といふ悪が細部に宿つてゐることで、これを次の場合も含めて著者は、情報統制と一般性のある言葉で総称してゐる。此処まで来れば、情報統制には、官民二つの情報統制のあることを私たちは知ることができる。

二つ目の物理層といふのは文字通りの現実の見る聞くといふ五感の世界で、この世界でも人間は論理層と同様にネツトワークをつくつて生活してゐる。曰く、人脈、金脈、法人脈（これは私の有効な造語）。此処にも「報道しない自由」といふ悪が細部に宿つてゐる。この悪を正当化するために歪んだ報道をしてゐるのが、マス・メディアに働く具体的実際的な人間たちである。肩書がジャーナリストであつても、本物のジャーナリストは実に少ないといふ世界です。

これでお判りの通り、事実には次の二つの事実があります。

（１）論理的事実
（２）現実的事実

ほとんどの場合私たちは毎日意識してゐるのは、（２）の五感に触れ五感に訴求する事実です。しかし、著者のいふ「フェイク・ニュースを見きわめる１４の条件」（同書２０８ページから２０１０ページ）を実際に実地に応用して記事を読んでその悪を見抜くためには、論理的事実の真贋を見抜く力、普通いふ文章読解力が必要で、そのためにはやはり目には見えない論理的事実を知る努力をしなければなりません。そのためのガイドブックが、この著作です。手にとつてお読みになることをお奨めします。この１４条件は最後にまとめます。

さて、著者はこのやうな私的で、恣意的で、従ひ私欲によるあなた個人への悪意ある誘導を、的確な言葉で「メディア・コントロール」と呼んでゐます。この言葉も、あなたが情報大洪水時代を生き延びるために必要とする、忘れてはならない言葉です。

この言葉は、しかし、著者の独創かといふとさうではなく、これは『メディア・コントロール』といふ著作に、安部公房の高く評価したチョムスキーといふ言語学者がアメリカを軸に此のメディア・コントロールの振りまく害悪を厳しく批判した前例がありますので、この語は英語圏では普通に使用される用語であることは自明です。即ち、この著作はアメリカのメディア・コントロール批判と軌を一にしてゐます。日米がさうならば欧州も同じです。ウクライナ問題の喧（かまびす）しい昨今ですから、毎日ネットで米欧の地上波TV局の複数のチャンネルを視聴してゐると、このことがよく解ります。即ち、私の毎日見るドイツの地上波放送局もアメリカのマス・メディアに同調し、アメリカや日本のマス・メディアと同調してゐる。といふわけで、日米欧のマス・メディアは三極で同調してゐる。三極で同調して虚妄の夢を見てゐる。即ち、表層的な、断片的な、分析を欠いたモザイク報道は、事実を伝へてゐない。多分、マス・メディアは現実とは猥褻なものだと考へてゐるので隠したいことがたくさんあるのせう。だからポルノグラフィーを表だつて映像化する時と同じモザイクをかける。さう、メディア・コントロールとはモザイク報道のことだつたのです。なんといふ発見でありませうか。

やはり上述の通りで、私的な露骨な無法な（本当は夢呆と書きたいが）行為を覆ひ隠す後ろめたさとともに情報統制とメディア・コントロールがある。あるいは、情報操作と呼んでも良い。そしてこの後ろめたさを量でマスで打ち消さうとする。これがマス・メディアの名前の意味です。だから、質を疎かにして、マス・メディアは日米欧ともに共通して、事実の報道を忘れて、猥褻な夢としての共産主義といふ虚報を見続けたいと願つてゐるのだ。その虚報とは、メディアが自分自身で聴きたい嘘であつて、その隠微な夢が著者の列挙する下記の覚醒項目といふわけです。私た

ち読者・視聴者のなすべきことは、マス・メディアの愚かな夢想者たちを覚醒させて、事実の報道を嫌々でも強制的にさせることです。次の用語を入れずに記事を書いてゐるのである以上、私たちはこれらの用語を入れて自分で記事を上書きしてみたら良いのです。私たち自身がジャーナリストになるのです。総ての用語の末尾に「批判」の二文字をつけてみて下さい。マス・メディアの最も恐れるのがこれらを「報道しない自由」に対する批判であることが実感されます。だから、これらの項目に関する報道の不足は知る自由の不足である、知る権利の侵害だといつて大いに批判することが、マス・ジャーナリスト一人一人を覚醒させる、私たちパーソナル・ジャーナリストの正しい行ひだといふことになります。これが、この情報大洪水の時代に個人用のノアの方舟を建造することなのです。もちろん、安部公房の傑作『箱男』の主人公のやうに冷蔵庫大の箱を被つても良いわけですが。さて、その箱の窓から覗いて「批判」すべきは次のことです。

（１）極東裁判
（２）GHQが国際法違反の現行憲法を起草したこと
（３）アメリカ
（４）ロシア
（５）イギリス
（６）その他の第二次世界大戦の連合国（要するに国連）
（７）朝鮮または朝鮮人
（８）中国または中国人
（９）第三次世界大戦
（１０）戦争擁護
（１１）神国日本
（１２）軍国主義
（１３）ナショナリズム
（１４）大東亜共栄圏

これらを通覧すれば、見事にすべてが大東亜戦争と日米戦争と第二次世界大戦に関することだといふことが明らかです。前二者も後三者に含めれば、結局マス・メディアは第二次世界大戦を継続したい、あるいは第二次世界大戦の結果を永続させたいと夢を見てゐる輩の集まりでできてゐるといふことです。彼らは世界大戦を願つてゐるのです。誠に歴史の真理は一発の大砲の轟音で目覚める。それが現下起きてゐるウクライナ紛争です。いづれ著者はこの歴史的意義を著はすでせうから、私の作文の時計はここで一旦止めることにします。

ネット・モナド論（２５）
グレートリセットとは何か（３）
ダボス会議の日本国内の手先機関であるpartnership組織とはどれか・誰か？

１。パートナーシップとは何か

パートナーシップには、組織と個人と二種類がゐます。前者は組織と判るよう組織をつけて、パートナーシップ組織と呼び、後者はパートナーシップ個人と呼ぶことにします。後者の場合で、ダボス会議の経営者教育講座を受けて選民として教育を受けた人間を、シュバブは、シェーパーズと呼んでゐますので、パートナーシップ個人とシェーパーズは混在し、シェーパーズはパートナーシップ個人に含まれると解して、特段ダボス会議によろ訓練を問題にしない限りはパートナーシップ個人を主に使ひます。

パーナーシップ個人の例はパソナ平蔵（更に軽蔑する時には蔑称として、鬼平といふ尊称に対して「パソ平」と呼ぶことにする）一つで大体どんな卑しい人間であり公私混同も甚だしいかがお判りでせうから［要するに国内政治権力と国際的権力（国連とダボス会議）を私的に悪用した利権漁り男である］［註１］、以下、なかなか実体の掴みにくい組織のパーナーシップの例と其処に巣食ふ日本版シェーパーズの例を具体的に名前も挙げて、この章で解説を続けます。

［註１］
パソ平は２０２０年２月４日付の記事によればダボス会議の評議員を務めてゐる：

竹中平蔵氏がダボス会議で感じた日本のメディアの問題点と新しいメディアの可能性：https://dime.jp/genre/851777/

２。日本国内にゐるパートナーシップ組織

この組織の一つがGlobis大学経営大学院といふ名前の、これは本来私たちの知る大学ではなく、新しい当時の法律によつて作られた特別区（通称特区）に設立された株式会社です。要するに如何に金を儲けるかを目的とした全国の中小企業を含む企業経営者に対するダボス会議の理想とする世界統一政府を作るために、各国で経済の領域から共通の経営論理を共有させて数を増やし、趨勢をつくり、そこで政治に影響力を行使して、世界統一政府実現を図るシェーパーズ育成機関、私の言葉でいへば、グローバリスト洗脳教育機関です。

大学院長を務める堀義人なる人物をネットで検索すると（https://ja.wikipedia.org/wiki/堀義人）、

2008年に日本版ダボス会議である「G1サミット」を創設。

とあります。まさに本家ダボス会議の目的通りです。

別途グロービス大学をWikiで見ると設立時の誰が設立したかの主体が隠されてゐる（https://ja.wikipedia.org/wiki/グロービス経営大学院大学）。そのあとに登場して経営するのがこの堀何某です。このWikiを読むと（https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%A4%E3%83%AB:GLOBIS_logo.jpg）、グロービス経営大学院大学は、

「2006年4月に株式会社グロービスが東京都千代田区のキャリア教育推進特区を利用した「株式会社立大学」（学校法人ではなく営利企業としての株式会社が設置した大学）として創立した。」

とあるので、やはりこれは本来の大学ではない。金儲けの株式会社です。政治家と官僚の罪は重いぞ。しかも明らかになつたことは、特区なる制度は、外資の金儲けのための（教育までも！）制度だといふことです。これをみとめた以上他の産業にも被害が及んで（既に）ゐるだらう。

これをどうやって潰して立て直す？ここでまとめると、さて以上を知つた上で、我らは、この現状認識の上に如何に戦ふべきか？

（１）該当する法律の廃止及び関連法令の改正
（２）政治家と官僚のダボス会議との人脈・金脈・法人脈の洗い出しの徹底
（３）ダボス会議を初めグローバリズム対抗法案の制定（スパイ防止法その他の安全保障法案は皆これに入る）
（４）やはり、教育の根本的な改革
　（あ）文部科学省の廃止と、文部省の再建
　（い）江戸時代にあつたやうな私塾の振興政策の実施
　（う）その他必要な政策の立案と実行。

さらに調べると、このグロービスといふ団体は、明らかに「グレートリセットとは何か？」に明示されてゐるダボス会議の国内partnership組織です。即ち、ダボス会議から金と技術の提供を受けてゐる。金のながれを追ふべきです。技術の提供を受けると、反対に国内の技術も流出するでせう。恐ろしいことは、デジタル庁の石倉洋子（デジタル庁 デジタル監　一橋大学名誉教授）なるものが出席してゐることです。これでデジタル庁はダボス会議の国家横断的傘下にあることが明らかになりました。この庁は解体すべきです。他に、水野弘道（国連事務総長 特使（革新的ファ

イナンスと持続可能な投資担当）／米テスラ 社外取締役）といふ怪しげな男もゐる。

「デジタル庁デジタル監・石倉氏、国連事務総長特使・水野氏が語る「グリーン」「デジタル」で進化するステークホルダー経営239 回視聴2022/01/13」
https://www.youtube.com/watch?v=7Dm5uGb2v5A

こんな企画をやってゐるグロービスといふ組織があるのは明らかにこの出席者たちはダボス会議につながった、日本人経営者洗脳組織である。特に「ステークホルダー経営」は、利害関係者経営と私は訳しましたが、先日配信した「グレートリセットとは何か？」で明らかなやうに、これはダボス会議用語であり、ダボス会議の戦略のキーワードの一つだからです。この間の東京オリンピックの閉会式の標語のdiversity ad Inclusionといふダボス会議用語の使用で明らかになつた通り、日本のこのオリンピックは完全にダボス会議に乗っ取られてゐました。恐ろしいことです。今の政府は如何、大丈夫かといふと、上記に名を挙げたGlobis経営大学院主催講座への出席者をみると、今の日本の政府もやられてゐる。

課題及び対抗策：
「グレートリセットとは何か？」視点で、今の閣僚・その他の政治家、官僚の発言と行動を全て洗ひ出して、リストを作成して、一度ダボス会議に操られてゐる人間を洗ひ出して戦略を練り直すことが、国家として必要かと存ずる。つまり、その手のスパイが国会議事堂と霞ヶ関官庁街のビルの中にゐることは明らか。且つ、このグロービス大学院などといふやうな民間組織関係者を法人個人を問はずに洗ひ出すことになります。

以上は、誠に憂慮すべきダボス会議による侵略のうちの、あくまでも日本の例です。一体このシュバブといふ男はダボス会議を使つてこのやうなことを実行するために世界中にどのやうな組織を編成して動かしてゐるのかといふことを自分の言葉で或る動画で発信してゐますので、これを聞いて下さい。言語は英語です。私が文字起こしをして、さらに日本語に翻訳したものを次の章で後掲し、あなたの理解を得たい。この動画はシュバブの出版してゐる『The Furth Industrial Revolution』（第４次産業革命論）といふ著作の具体的な解説です。この２０１年９月１３日のスピーチを次の章でまとめつつ解説をします。このスピーチは２０２１年を振り返つて、予定と実績を語つたもので、当然中華謹製武漢コロウイルスは発生してゐることをシュバブは知つてゐる。

３。シュバブの第４次産業革命論

（続く）

ネット・モナド論
（２６）
ジョージ・ソロスの寄稿文
『ウラジーミル・プーチンと第三次世界大戦のリスク』を読む

岩田英哉

この寄稿文は2022/03/11付でプロジェクト・シンジケート誌上にネット上でジョージ・ソロスの発表したもので、今の世界情勢を理解するために非常に役立ちますので、以下に私の読解を示すものです。和訳と英文原文は後掲します。

この寄稿文を読んでわかることは、次のことです。

１。ソロスは第三次世界大戦を起こすことを考へてゐること
２。そのためにロシアへの圧力をウクライを通じて仕掛けたといふこと。
３。ソロスは各国へ自分の財団を設立して来たが、その目的はその国をdisintegrationすることであること。このdisintegrationとは、統合の逆で、統合を壊して一国をバラバラにすることです。
４。この３の文脈で下記の文を読むと、ソロスといふ男は自分の祖国であるハンガリーもまた解体するつもりであつたこと。今も財団がハンガリーにあるとすれば、同じ目的のために活動してゐるといふこと。（私には狂気の沙汰に思はれる。しかしこの寄稿を読むと、子供の頃の体験でソヴィエト軍による侵略略に対する憎悪のあることが判る。しかし、そのことと祖国を解体することとがつながらない。それとも祖国ハンガリーに設立した財団だけは別なであらうか？）［註１］
５。直接か間接か、もしソロスが日本に財団を設立した場合には、日本の解体を謀つてゐることは間違ひのないこと。これは要調査重要事項です。同じダボス会議のパートナーシップ組織または個人が直接間接にソロスの意を受けて活動してゐることは間違ひのないこと。その例がGlobisであり、パソ平であること。当人たちにその自覚があるかどうかはまた別の話です。全体主義者はスパイには、常に断片しか見せないよう仕組むものです。これは私が東ドイツで得た知見です。
６。中国でロシアと同じことを仕掛けたが、失敗したこと。従ひ中国から財団を引き払つて撤退したこと。従ひ、
７。プーチンのロシアと習近平の中国はソロスの、従ひダボス会議の、従ひウオール街国際金融ユダヤ資本左派の敵であるといふこと。従ひ、この勢力に支持されて、不正選挙で大統領職についてゐるバイデンはソロスといふ投資家として勢力群の末端にゐるこの男の言動と同期してアメリカ国家として動くといふこと。さうすると、次のやうな概念連鎖になる。

ーダボス会議ーソロスー国際金融ユダヤ資本左派ーバイデン（米）ーウクライナープーチン（露）ー習近平（中）ー

７。ソロスがプーチンと習近平を権力から取り除くといふ明確な主張をしてゐるので、習近平がウクライナとプーチンの間で調停をすることはできない。といふことは、
８。EUは最初から戦意は無く、軍事組織としてのNATOも機能しない。従ひ、
９。バイデンのアメリカと組んで動く限り、EU主要国による調停はできないので、EUによる調停は、ない。大陸側のドイツとフランスか、あるいはイギリスにまだこれら二国より交渉力があると思ふが、如何か。従ひ、
１０。これからは、ヨーロッパは昔に戻り、アメリカと距離を置くことになる。つまり、
１１。今のアバイデンのメリカが強く望めば望むほど、NATOの解散は早まる。それ故に、
１２。東欧諸国は緩衝地帯となつて、再び１９世紀・２０世紀と同様の役割を演ずる。彼らの近代の歴史に進歩はなかつたといふ事実を証明する結果になるだらう。願ふことは、イギリスもドイツも、またポーランドも同じ過ちを犯さぬことである。
１３。このウクライナ紛争・conflictが長びけば長びくほど、北方領土奪還の機会が増大するといふ点で日本には非常に有利である。積極的外交を行ふ絶好機である。
１４。上記１１及び１２のことからみても、EXIT帝国の分立は一層不可避であり、世界は多極化してEXIT帝国群が重層化して、地殻変動と地震発生の理論であるプレート・テクニクス理論みたいに、帝国レイヤーが重複して層を成してゐるので、文化の世界ではもともとさうではあつたが、いよいよ政治の世界でも単純な二項対立は終はりを迎へて、世界の諸国各国の国家別の深層構造が誰の眼にも見えるやうになつたといふことである。要するに、
１５。各国の建国の初心、建国の歴史的由来に戻ることにあるだらう。といふことは、
１６。欧米は自分達の国家は人類的規模での古代は持ち合はせてゐないといふ事実に直面する。
１７。日本だけは少しも迷ふ必要がない。その分の力を国内政治と国内経済再建に振り向けることができるし、積極的にさうすべきです。
１８。この寄稿文は、ソロスとその背後にゐる勢力が対中と対露への国家分解工作が失敗したといふことを示してゐる。といふことは、
１９。今後は、第三次世界大戦の勃発をちらつかせて、中華謹製武漢産ウイルスを利用した時と同じく、恐怖心を利用して人間の思考範囲を狭め、二項対立のいづれかの選択を連続的にさせて、諸国家解体の動きを一層促進しようとする。そのために、プーチンを悪者にして、この間、プーチと習近平をそれぞれの国から失脚させるための謀略をめぐらすことになる。これがすすむと、しかし、
２０。逆に、ダボス会議の思惑に相違して、グローバリズムの進展が阻害されて、最近の国連総会で女性の登壇者が嘆いていたやうにポリコレもフェミニズムもCRTもSDGsもうまくゆかないことになるし、なつてゐる。これは上記１４の国家の多極化に連動してゐる。プーチンと習近平およびダボス会議・グローバリズム共産主義

勢力の対立がダボス会議主宰者シュバブの提唱する「第四次産業革命」を頓挫させてゐる。EXIT帝国がみなバラバラになつて国家意志主体で行動するやうになり、世界は多極化するので、グローバリズムはウクライナ紛争を起こしたことで（これはいつものアメリカのやり口でmagician’s select［註３］であることは既述既論の通り。日本の真珠湾攻撃事件もこの術中に嵌つた結果です。遠くはヴェトナム戦争のトンキン湾事件を、近くは子ブッシュのイラク戦争を想起してほしい）、自業自得の自家撞着に陥つてしまつた。
２１。ソロス他の勢力は今手詰まりである。自分達の描いたシナリオ通りに事態が進んでゐない。この寄稿の今年３月１１日の時点では。

［註１］
【原文】
First, I set up a foundation in my native Hungary, and then I actively participated in the disintegration of the Soviet empire. When Mikhail Gorbachev came to power in 1985, the disintegration had already begun. I set up a foundation in Russia, and then did the same in each of the successor states. In Ukraine, I established a foundation even before it became an independent country. I also visited China in 1984, where I was the first foreigner allowed to set up a foundation (which I closed in 1989, just before the Tiananmen Square massacre).

【Google翻訳】
まず、母国ハンガリーに財団を設立し、ソビエト帝国の崩壊に積極的に参加しました。 ミハイル・ゴルバチョフが1985年に政権を握ったとき、崩壊はすでに始まっていました。 私はロシアに財団を設立し、その後、継承国のそれぞれで同じことをしました。 ウクライナでは、独立国になる前から財団を設立しました。 また、1984年に中国を訪問しました。そこでは、私が財団の設立を許可された最初の外国人でした（天安門事件の直前の1989年に閉鎖しました）。

［註２］
ソロスの最後の二つの段落は矛盾してゐるので、行間に詭弁が隠れてゐることを示してゐる。

【原文】
Meanwhile, Xi seems to have realized that Putin has gone rogue. On March 8, one day after Chinese Foreign Minister Wang Yi had insisted that the friendship between China and Russia remained “rock solid,” Xi called French President Emmanuel Macron and German Chancellor Olaf Scholz to say that he supported their peacemaking efforts. He wanted maximum restraint in the war in order to avert a humanitarian crisis.

It is far from certain that Putin will accede to Xi’s wishes. We can only hope that Putin and Xi will be removed from power before they can destroy our civilization.

【Google翻訳】
その間、習近平はプーチンが不合格になったことに気づいたようです。中国の王毅外相が中国とロシアの友好関係は「堅実」であると主張した翌日の3月8日、習近平はフランスのエマニュエル・マクロン大統領とドイツのオラフ・ショルツ首相に平和構築の努力を支持したと述べた。彼は人道的危機を回避するために戦争を最大限に抑制したかったのです。

プーチンが習近平の希望に応じることは確かではありません。私たちは、プーチンと習近平が私たちの文明を破壊する前に、権力から外されることを期待することしかできません。

［註３］
『安部公房のアメリカ論 （４）：アメリカ人は冷戦が始まると何故いつもUFOを目撃するのか？』（もぐら通信第１０６号）より引用します：
「今細かな論証は省きますが、私の結論だけを此のUFOの論考の文脈で述べれば、アメリカといふ国家はmagician`s selectの国なのです。即ち、仕組まれた/仕組んだ贋の現実を相手に見せて、それが恰も自分が選択した自由に依る結果だと錯覚させることに長けた国なのです。よくある手品で、カードをシャッフルさせて其のシャッフルした当人の選んだカードの紋様を当てたりする小さな文字通りの小手先の手品といふべき魔術から、 大きな仕掛けの倉庫のやうな空間を利用して現実に見えてゐた筈の自由の女神像を消してしまふ大仕掛けの魔術まで、自分の自由で其の現実を恰も選択して其処にゐると思はせて措いて、実は其の裏ではもう一つの仕組みと仕掛けと仕込みがあるといふmagician`s select、魔術にかけられた側の客人が、実は魔術師の選択的な誘導によつて謀られるといふこと、これがマジシャンズ・セレクトなのです。

その典型例の一つが、日本帝国海軍による真珠湾攻撃であり、自作自演のヴェトナム戦争発端のトンキン湾事件であり、アフリカや中近東での戦争や其のほかの地域での紛争や事変の契機となつた一見偶発的な歴史上の事件である。この場合常に民主主義と自由がイデオロギーになつてゐる事がアメリカといふ国家の問題である。マジシャンズ・セ レクト。極端な場合には自作自演にまでなるといふマジシャンズ・セレクト。

私も実際にアメリカで、ある宴席で余興に魔術師が登場し、席を廻つて歩いて、間違ひなく一番騙しやすい人間を人種を超えて其の服装も含めて特徴をよく分類して捉へてゐ るのでせう、私がカモに選ばれて、言葉と仕草で私の注意を逸らしてゐるうちに（勿論 私は気づかない）此のマジシャンズ・セレクトにやられた事があります。英語でred heringといふ言葉がありますが、贋の赤い鰯を囮にして、本筋の仕事を成し遂げるといふ遣り方も同じですが、私がここで云ひたいのは、アメリカ人はこれが生活の、仕事と遊びの隅々まで染み渡つてゐて、無意識に其の世界に住み、意識して物を考へて、さて何かをしよう、さうだお金を儲けようと思ふと自然に（自然にですー私たちの自然とは全然違ふ）さうするといふ事なのです。

だからアメリカ人は年がら年中ラスベガスでマジック・ショーを演つてゐる。アメリカ 人はパーティーが非常に好きだ。あの雰囲気は私には少し異常に思はれる。あの受付の 女性たち男性たちの笑顔は、今かうして書いてゐても、なんだかマクドナルドの店員の 笑顔に似てゐる。あの笑顔は作り笑ひなのか、本当に楽しんでゐるのか。私にはよく判別できないのである。本物と云へば本物、贋物と云へば贋物である。さう、何事にも showの要素を入れて楽しくするのが好きだ。Show upするのが好きなのは、一見実直な ビジネスの場のプレゼンテーションにあつても然り。日本の大手企業の社員のプレゼン を、アメリカ人の簡潔なスクリーンの、show（見せる）する言葉とプレゼンの後では、 見劣りがして、困つたものだと思つた事がある。私たちに此の感覚（センス）はありま せん。日本で真似てパーティーを開いても、それはアメリカ人のパーティーではない。

このshow upする、この本物に対する贋物性の創出を楽しみ娯楽（entertainment）とす ること、お客を楽しませる（entertainする）こと、これが「いつでも、どこでも、誰に でも」アメリカ人が心を尽くす礼儀作法の一つなのだ。と、私はさう考へるが、あなたは如何思はれるか。さう思へば、街角のコンビニも、スーパーマーケットも、eBayも、 通販も、クレジットカードも、何もかもエンターテインメントである。

【和訳】

ウラジーミル・プーチンと第三次世界大戦のリスク

特集記事

2022年3月11日| ジョージ・ソロス

中国の習近平国家主席から青信号を受け取った後、ロシアのウラジーミル・プーチン大統領は、古いロシア帝国を取り戻すためにウクライナで戦争を開始しました。しかし、両方の指導者は状況を誤って判断したようであり、彼らが権力から外されない限り、世界的な大惨事の可能性を高めています。

サンフランシスコ発–
2月24日のロシアのウクライナ侵攻は、私たちの文明を破壊する可能性のある第三次世界大戦の始まりでした。侵略に先立って、2月4日、ロシアのウラジーミル・プーチン大統領と中国の習近平国家主席の間で、中国の月の新年のお祝いと北京冬季オリンピックの始まりとの長い会議が行われました。その会議の終わりに、二人の男は二国間の緊密なパートナーシップを発表する5,000語の注意深く起草された文書を発表しました。この文書はどの条約よりも強力であり、事前に詳細な交渉が必要であつたにちがいない。

私は、習近平がプーチンに対してにウクライナへの侵略と戦争への白票を与えたように見えたことに驚いた。といふことは、彼は、今年後半に中国の生涯の支配者としての彼の地位の確認が単なる形式的なものになることを非常に確信しているに違いありません。すべての力を自分の手に集中させた習近平は、毛沢東と鄧小平のレベルに昇格するシナリオを注意深く文書化しました。

プーチンは、習近平の支持を得て、信じられないほどの残忍さで彼の人生の夢を実現することに着手しました。 70歳に近づくと、プーチンは、彼がロシアの歴史に彼の刻印を打つつもりであるならば、それは今しかないだろうと感じています。しかし、世界におけるロシアの役割についての彼の概念は歪められています。彼はロシアの人々が盲目的に従うことができる皇帝を必要としていると信じているようです。それは民主主義社会の正反対であり、情緒的な点［訳者：または憎悪とまで訳せるか］で感情的なロシアの「魂」を歪めるビジョンです。

子供の頃、1945年にソヴィエト連邦がハンガリーを占領したとき、私はロシアの兵士と多くの出会いがありました。彼らに訴えれば、彼らは最後のパンを共有することを学びました。その後、1980年代の初めに、私は自分の政治的慈善活動と呼ぶものに着手しました。

まず、母国ハンガリーに財団を設立し、ソビエト帝国の崩壊に積極的に参加しました。ミハイル・ゴルバチョフが1985年に政権を握ったとき、崩壊はすでに始まっていました。私はロシアに財団を設立し、その後、継承国のそれぞれで同じことをしました。ウクライナでは、独立国になる前から財団を設立しました。また、1984年に中国を訪問しました。そこでは、私が財団の設立を許可された最初の外国人でした（天安門事件の直前の1989年に閉鎖しました）。

私はプーチンを個人的には知りませんが、彼の冷酷さを認識して、彼の台頭を非常に注意深く見守っています。彼は現在ウクライナの首都キエフに行くと脅迫しているように、チェチェンの首都グロズヌイを瓦礫にてしまつた。

プーチンはかつては気の利いたKGBオペレーターでしたが、最近変わったようです。或る固定観念を開発した後、彼は現実との接触を失ったようです。彼は確かにウクライナの状況を誤解した。彼は、ロシア語を話すウクライナ人が両手を広げてロシアの兵士を歓迎することを期待していましたが、彼らはウクライナ語を話す人々と何ら変わりはありませんでした。ウクライナ人は、一見圧倒的なオッズに対して信じられないほど勇敢な抵抗を示しました。

2021年7月、プーチンは、ロシア人とウクライナ人は本当は1つの民であり、ウクライナ人はネオナチの扇動者に惑わされていると主張する長いエッセイを発表しました。キエフがロシア正教会の元の議席であったことを考えると、彼の議論の最初の部分は歴史的な正当性がないわけではありません。しかし、第二部では、誤解されたのはプーチンでした。彼はもっとよく知っているべきだった。多くのウクライナ人は、2014年のユーロマイダンの抗議行動中に勇敢に戦いました。

2014年の出来事は彼を非常に怒らせました。しかし、ロシア軍は、ウクライナの兄弟を攻撃するように命じられたとき、パフォーマンスが悪かった。防衛契約の授与における根深い腐敗もまた、その業績不振において重要な役割を果たしてきました。しかし、プーチンは自分を責めるのではなく、文字通り怒ったようです。彼は彼に立ち向かったのでウクライナを罰することを決心しました、そして彼は何の制約もなく行動しているようです。彼はロシア軍全体を戦いに投げ込み、特に民間人を無差別に爆撃することによって、戦争のすべての規則を無視しています。多くの病院が被害を受け、チェルノブイリ原子力発電所（現在ロシア軍が占領している）に電力を供給している送電網が損傷している。包囲されたマリウポリでは、40万人が1週間近く水と食料を失っています。

ロシアは戦争に負けるかもしれない。米国と欧州連合はどちらもウクライナに防御兵器を送っており、ウクライナのパイロットが飛行方法を知っているロシア製の

MIG戦闘機を購入する努力がなされています。これらはすべての違いを生む可能性があります。結果に関係なく、プーチンはEUの決意と団結を強化することになる驚異的な努力をすでにしてきました。

その間、習近平はプーチンが不合格になったことに気づいたようです。中国の王毅外相が中国とロシアの友好関係は「堅実」であると主張した翌日の3月8日、習近平はフランスのエマニュエル・マクロン大統領とドイツのオラフ・ショルツ首相に平和構築の努力を支持したと述べた。彼は人道的危機を回避するために戦争を最大限に抑制したかったのです。

プーチンが習近平の希望に応じることは確かではありません。私たちは、プーチンと習近平が私たちの文明を破壊する前に、権力から外されることを期待することしかできません。

＊＊＊

https://www.project-syndicate.org/commentary/putin-ukraine-world-war-3-risk-by-george-soros-2022-03

【原文】

Vladimir Putin and the Risk of World War III

Mar 11, 2022 | GEORGE SOROS

FEATURED
After receiving a green light from Chinese President Xi Jinping, Russian President Vladimir Putin launched his war in Ukraine in an effort to reclaim the old Russian empire. But both leaders appear to have misjudged the situation, raising the prospect of a global catastrophe – unless they are removed from power.

SAN FRANCISCO – Russia's invasion of Ukraine on February 24 was the beginning of a third world war that has the potential to destroy our civilization. The invasion was preceded by a long meeting between Russian President Vladimir Putin and Chinese President Xi Jinping on February 4 – the beginning of the Chinese Lunar New Year celebrations and the Beijing Winter Olympic Games. At the end of that meeting, the two men released a 5,000-word, carefully drafted document announcing a close partnership between

their two countries. The document is stronger than any treaty and must have required detailed negotiations in advance.

I was surprised that Xi appeared to have given Putin carte blanche to invade and wage war against Ukraine. He must be very confident that his confirmation as China's ruler for life later this year will be a mere formality. Having concentrated all power in his own hands, Xi has carefully scripted the scenario by which he will be elevated to the level of Mao Zedong and Deng Xiaoping.

Having obtained Xi's backing, Putin set about realizing his life's dream with incredible brutality. Approaching the age of 70, Putin feels that if he is going to make his mark on Russian history, it is now or never. But his concept of Russia's role in the world is warped. He seems to believe that the Russian people need a Czar whom they can follow blindly. That is the direct opposite of a democratic society, and it is a vision that distorts the Russian "soul," which is emotional to the point of sentimentality.

As a child, I had many encounters with Russian soldiers when they occupied Hungary in 1945. I learned that they would share their last piece of bread with you if you appealed to them. Later, at the beginning of the 1980s, I embarked on what I call my political philanthropy.

First, I set up a foundation in my native Hungary, and then I actively participated in the disintegration of the Soviet empire. When Mikhail Gorbachev came to power in 1985, the disintegration had already begun. I set up a foundation in Russia, and then did the same in each of the successor states. In Ukraine, I established a foundation even before it became an independent country. I also visited China in 1984, where I was the first foreigner allowed to set up a foundation (which I closed in 1989, just before the Tiananmen Square massacre).

I don't know Putin personally, but I have watched his rise very closely, aware of his ruthlessness. He reduced the capital of Chechnya, Grozny, to rubble, just as he is currently threatening to do to the capital of Ukraine, Kyiv.

Putin used to be a canny KGB operator, but he seems to have changed recently. Having developed an idée fixe, he appears to have lost touch with

reality. He certainly misjudged the situation in Ukraine. He expected Russian-speaking Ukrainians to welcome Russian soldiers with open arms, but they turned out to be no different from the Ukrainian-speaking population. Ukrainians have put up an incredibly brave resistance against seemingly overwhelming odds.

In July 2021, Putin published a long essay arguing that Russians and Ukrainians are really one people, and that the Ukrainians have been misled by neo-Nazi agitators. The first part of his argument is not without some historical justification, given that Kyiv was the original seat of the Russian Orthodox Church. But in the second part, it was Putin who was misled. He ought to have known better. Many Ukrainians fought valiantly during the Euromaidan protests in 2014.

The events of 2014 made him very angry. But the Russian army performed poorly when it was ordered to attack its Ukrainian brothers. Ingrained corruption in the awarding of defense contracts also has played an important role in its underperformance. Yet rather than blaming himself, Putin seems to have gone literally mad. He has decided to punish Ukraine for standing up to him, and he appears to be acting without any constraint. He is throwing the entire Russian army into the battle and ignoring all the rules of war, not least by indiscriminately bombing the civilian population. Many hospitals have been hit, and the electrical grid supplying the Chernobyl nuclear power plant (currently occupied by Russian troops) has been damaged. In besieged Mariupol, 400,000 people have been without water and food for nearly a week.

Russia may well lose the war. The United States and the European Union are both sending defensive weapons to Ukraine, and there are efforts to buy Russian-made MIG fighters that Ukrainian pilots know how to fly. These could make all the difference. Regardless of the outcome, Putin has already worked wonders when it comes to strengthening the EU's resolve and unity.

Meanwhile, Xi seems to have realized that Putin has gone rogue. On March 8, one day after Chinese Foreign Minister Wang Yi had insisted that the friendship between China and Russia remained "rock solid," Xi called French President Emmanuel Macron and German Chancellor Olaf Scholz to say that he supported their peacemaking efforts. He wanted maximum restraint in the

war in order to avert a humanitarian crisis.

It is far from certain that Putin will accede to Xi's wishes. We can only hope that Putin and Xi will be removed from power before they can destroy our civilization.

ネット・モナド論

（２７）

プーチンは何を考へてゐるか

ロシアは今日か明日にでもデフォルトするといふ報道があるので、このデフォルトといふ言葉を軸にして反対意見を、掲題の元に述べたい。

私がこれまで読んできた英語圏の記事に、プーチンが金（きん）に対する税金を非課税にしたといふ記事がありました。といふことは、プーチンはアメリカのドル通貨の基軸を外れても、安部公房流にいへばユープケッチャのやうに自己閉鎖的生態系を維持できるように国内体制を変へて来たと考へることができる。つまり、ここでもプーチンと習近平の思惑は一致してゐる。プーチンは金本位制、習近平はデジタル人民元体制の確立を目指してゐる。このことはダボス会議の側から見ても、ソロスがプーチンと習近平をそれぞれの国から取り除けと露骨に其の失脚を強引に主張してゐることと、これも一致してゐる。

ところで、煽動家ソロスが代表するダボス会議の思惑はみなドル一極基軸通貨の上に成り立ってゐるのではなかつたか。だから、後でふりかえつてみると、ウクライナ紛争といふソロスとその勢力の仕掛けたロシア侵略のための局地的代理戦争は、基軸通貨多極化の前触れであつたといふことになります。それは、国家主権も多極化するのだから、経済的国家主権も私のいふEXIT帝国群ごとに分かれて当たり前だといふことです。今世界中の市場を支配してゐる、外国為替売買のために仮想現実のネット上で毎日使われてゐるトレード用ソフトウエアは、ソ連崩壊後にロシア人が開発したソフトウエア・プログラムだ。これに１８世紀の酒田・大阪・江戸の日本人の商人の発明したローソク足がのつて世界中で毎秒使用されてゐることは誠に興味深い事実を示唆してゐると思ふ。まあ、これはFXの話です。さて、

ロシア国内で金の取引と保有が非課税であれば、ロシアに金が流入してくるだらうし、関係した投資もあるだらうといふことになります。金の相場が上昇してもロシアに有利、下落してもロシアに有利。パラダイム・シフトと世上呼ばれて激変する時代は非対称性の時代です。つまり、ロシアはせめて国内とその勢力圏を金本位制に戻すつもりであるといふことです。国際的に巨大な市場があると仮定して（仮想してといふべきか、ヴァーチャル・リアリティの一種だ）、今のドル基軸と日中でドル建て債権を買い支えてゐる異常なこの国際的経済体制の崩壊をプーチンは見越して守りに入り、自己閉鎖的生態系を構築して、大恐慌にも同時に防御体制を敷いて備へてゐるといふわけです。日本の財務省や如何に。伝統ある大蔵省といふ名前に戻して魂を入れ魂を入れ直さ

ない限り、このボンクラ省は国民の生活に資する省には戻らない。言葉は文化の基本です。文化といふ言葉の中には能味噌も入ってゐる。無能味噌ではありません。

さて、とすると、ロシアのデフォルトが今日明日起きるかと言へば、起きない。（戦争とは何か、戦争の目的とは何か、です。これを真剣に考へて欲しい。）何故なら、ロシアは国際ドル基軸決済システムのSWIFTから排除されてゐるし（国際通貨管理秩序から排除されてゐるといふこと＝ロシアがドルで送金できない＝相手国もドルで受け取りができない）、これを予期しての金本位国内閉鎖生態系経済・政治への国家移転であるからですし、それにいつぞやの報道ではロシアは一方的に債務はルーブル建でしはらふと決めてゐるからです。プーチンの最終目的はロシア帝国の再興です。（日本も同じではないのか？）

日本も一日も早くプーチンに倣って国家移転すべきです。それが対米・対中へのわが国の世界史上の位置を聖徳太子以来変わらぬ絶域国か隣対国の位置に戻して、この自覚と国家意志のもとにアメリカのドル建て国債を今日から売り続けるといふ政策の実行だと思ふが、如何。日本帝国はアメリカ帝国と心中するわけにはいかないのです。このウクライナ紛争を契機に、日本とアメリカの国益は相反してゐることが早晩国民の誰の目にも明らかになつて、さて、その時私たちは如何に生きるべきか、そのためには、即ち私たちが生き延びるためには、一体日本の国は如何にあるべきかといふ議論をすることになります。もちろん、その時に議論を始めるのでは遅すぎる。今から安部公房の此れも傑作『方舟さくら丸』を読んで其の日に備へませう。読者にはいふまでもなく、これは核シェルターといふ方舟の中で生きる人間たちの話です。

ところで、核シェルターは本当に役に立つのだらうか？

安部公房曰く「そもそもぼくは核シェルターの存在そのものを拒絶してゐるのだからね」［註］といふ安部公房の、あなたは読者でありますから、核シェルターに救いを求める以外の道を求めることでせう。これもいふまでもなく、現行憲法第９条第２項といふ空念仏の、それ故に決して目には見えることのない高貴なシェルターは、物質的な目に見える現実の核シェルターには遙かに遠く及ばない。ことは、我が家の犬でも知つてゐる。

［註］
インタビュー『核シェルターの中の展覧会』での収録最後から二行目の発言の言葉（全集第２８巻、１１９ページ下段）。

縄文紀元論

Topologyで日本人を読み解く

（３２）

目次

I 縄文紀元日本語論
１。日本語と漢語の関係

Intermezzo：何故日本にはキリスト教徒が全人口の１％しかゐないのか？

２。日本語の音義と概念の関係：五十音表とは何か
３。五十音表を記号化する
４。日本人の言語宇宙
５。古事記の宇宙観
５.１ 高天原とは何か１
５.２ カミとは何か１
５.３ 高天原とは何か２
５.４ 日本語の特殊の中の普遍
５.５ 海の民のお祭りと超越論の関係
５.６ 天照大神とは何か
５.７ 月読命とは何か
５.７.１ 月とは何か
５.７.２ 月読命とは何か
５.７.３ 月読神社とは何か
５.７.４ ヤシロとは何か
５.７.５「鹿座神影図」を読み解く
５.７.６ 磐座と注連縄の関係
５.７.７ 亀の甲羅とは何か
５.７.８ 習合とは何か
５.８ カタカナとひらかなの関係

Intermezzo２：海凪之大刀（アマナギ・ノ・タチ）は一体どんな姿をしてゐるのか

５.９ 日本位相習合史
５.１０ 何故国家は単数または複数の神とともに生まれるのか
５.１１ かごめかごめの歌は一体何を歌つてゐるのか
５.１２ 縄文土偶とは一体何か
５.１３ 習合といふ漢意をやまとこころで何といふのか
５.１３.１ 位相史のための紀元の分類
５.１３.２ 淤能碁呂島とは何か
５.１５ 縄文土器とは何か
５.１６ 大祓へを読み解く
５.１６.１ 何故私たちは御祓を必要とするのか
５.１６.２ 大祓へに唱へられる「聞こし召す」とは何か

５.１６.３「聞こし召す」前に「しろし召す」がある
（１）第一段：高天原八百万神大祓ひ会議
（２）第二段：大倭日高見国内の天津罪と国津罪の分類と大祓
（３）第三段：大倭日高見国は大祓の結果どうなつたか
５.１６.４ 八の音義は何を意味するか
Intermezzo３　伊勢神宮とは何か
Intermezzo ３-1　伊勢神宮をやまと言葉で読む
５.１６.４-1　八の音義は何を意味するか２

青字は既論の章、赤字 は今回論ずる章、黒字は此れから論じる章

5.1 6.5 誰が「しろし召し」誰が「聞こし召す」のか
5.1 7　いほりとは何か
5.1 8「蟲めづる姫君」はカタカナとひらかなを如何に使ひ分けてゐるか
5.1 9　クラとは何か
5.2 2 「日本列島位相史」の最新版を
5.2 3　神武天皇のやまとことばの意味は何か
5.2 4 世界史の中の神武天皇
5.2 5　何故私たちは神前で二礼・二拍手・一礼をするのか？
5.2 7　カミとは何か２：何故カミはカミと呼ばれるのか？
5.2 8　鹿島神宮とは何か
5.2 9　神道と宗教と哲学の関係は如何なるものか
5.3 0 鹿島神宮とは何か２：鹿島神宮の位置と東西南北の鳥居の関係について
5.3 1　鹿島神宮を初めてお参りした時に八咫烏の現れた話
5.3 2　日高見国と日向国の関係：三浦一族の活動範囲
5.3 3　日高見国と播磨国の関係：ダイダラボッチ

＊＊＊

5.3 0 鹿島神宮とは何か２：鹿島神宮の位置と東西南北の鳥居の関係について

この章の掲題のこころは、高天原の適用範囲とは何処から何処までを高天原といふのかといふこころです。

「5.2.6　鹿島神宮とは何か」は「鹿島神宮の位置と東西の鳥居の関係について」述べましたが、この章では「5.2.6　鹿島神宮とは何か２」と題して、東西の鳥居のみならず、鹿島神宮を中心に置いて他に南北軸にある南北の一之鳥居を追加して、この問題の全体を、即ち「鹿島神宮の位置と東西南北の鳥居の関係について」論じたい。

高天原とは何か、それは何処にあるのか？といふ問は、そのまま鹿島神宮とは何か、それは何処にあるのか？といふ問に同じであり、後者の問に答へたら、前者の問に答へたことになり、その逆もまた真なり、といふ関係に此の二つ一組の、そして二双一組の問は、あります。片葉・片葉で階層的に問を立て、場合を分けて、答へてみませう。

問：高天原とは何か、それは何処にあるのか？
答：高天原とは、高天が原と呼ぶならば、この原は、東西南北の四つ鳥居によつて囲まれた矩形または菱形の図形の中に存在する場所（topos）が、高天原である。

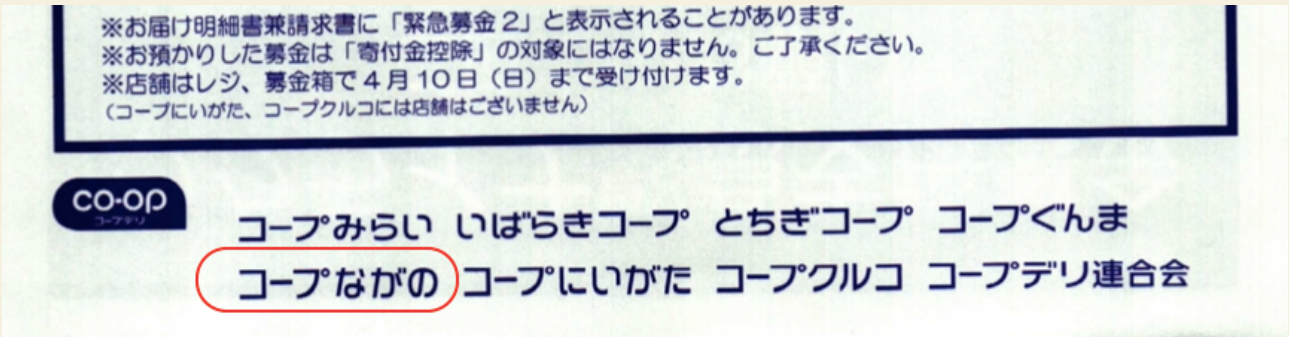
もう一つの場合に、もし高天原を高天の原と呼ぶならば、この原は、高天が原からみて、東の一之鳥居の向かうの鹿島灘の、太平洋の大海原の、アメ（天）とアマ（海）の二つの垂直方向の差異に存在する、しかしアメもアマも視界の中では

渾然一体となつてゐる此の巨きな海と空からなる空間の、アマ照大御神の、しかしアマもアメも区別し難い此の空間の海（アマ）を照らすカミの、従ひアマ照大御神が天照大御神と漢意を自由に使ひこなして此の二重の意味が掛けられてアマ・テラス・オホ・ミ・カミと呼ばれるカミが、実際に昼の海上を遥か私たち日本人の最も古いふるさとである南太平洋の島々にまで大きく照らす神がゐましますところ（topos）、これが高天の原である。昼は高天が原で育てた水先案内人の鳥である大祓ひを受けて高天の原の第二層を飛翔する《カモメ》や《カラス》を先導に地文航法で行く天之鳥船を天照大御神が、夜は天文航法で行く船を導く天御中主神と天之常立神が、かうしてアメ・アマの区別なく、ともに夜昼を問はずに天と海を照らしてゐる此処、あの私たちのふるさとを殊に意識し憧憬した此処、これが高天の原である。

さて、このやうなハラである高・天原の範囲、それは、次の通りです。これが狭義の、正確な、高天原といふ言葉の適用範囲です。ネット上でいはば拾つた地図を示します。

前に述べた東西軸の一の鳥居の他に、実は南北軸にも一の鳥居それぞれあつて、上掲図のやうにこれら四つの鳥居に囲まれた場所が狭義の高天が原です。北の一

之鳥居に註して戸隠神社とあるやうに鹿嶋の地は何故か信州に縁があつて、茨城の人の生活圏意識の中には長野があることが、日常的なチラシなどにも国際情勢の時節柄「ウクライナ緊急支援募金ご協力のお願い」と題したものの下段に次のやうな協讃組織の名前のあることから知ることができます。また息栖神社については、天津鳥になる《カモメ》を生育した場所として既述の通りです。


※お届け明細書兼請求書に「緊急募金２」と表示されることがあります。
※お預かりした募金は「寄付金控除」の対象にはなりません。ご了承ください。
※店舗はレジ、募金箱で４月１０日（日）まで受け付けます。
（コープにいがた、コープクルコには店舗はございません）

co-op コープデリ

コープみらい いばらきコープ とちぎコープ コープぐんま
コープながの コープにいがた コープクルコ コープデリ連合会

高天が原と呼ばれる此の土地は、鳥居の《ト》の間に東西軸を主軸に置かれた土地で、主たる参道は、西の一之鳥居を潜り、奥宮へと続く杉の木立の中を深々と参るもので、参拝の道の方角は東西軸の上を西から東へ行くのが本来の道です。即ち、さうして、奥宮でも今の本殿でも、其処で参拝すると、高天の原を遥拝することになつてゐるのです。高天が原と高天の原の違ひは既述の通りです（『縄文紀元論』（もぐら通信第１５２号）の「５.２６ 鹿島神宮とは何か：鹿島神宮の位置と東西の鳥居の関係について」を参照）。［註１］さうして、何故アメ（天）とアマ（海・湖）が等価かといふと、これは鳥居の《ト》といふ凹の穴と呼ぶならアナ、スキ・マと呼ぶなら隙間、空間と呼ぶなら其の幾何学的・図形的差異を価値がアタイが出入りして等価交換され余剰といふトミが生まれ、トヨと寿辞の冠せられるものに変形して、高天の原第二層のイノチ（命）となりミコト（命）となるからです。これは南太平洋諸島の海の民の実感であると思はれる。鳥居も其処にはある筈で、別に大きなものではなく、小さな鳥居相当《ト》の機能を備へたものであれば何でも良い其処が、私たち日本人の最も古いふるさとです。私たちの文化は御シルシの文化なので、欧米のやうに壮麗で宏大である必要はありません。シルスとか、シラスとか、シラシメス（敬語表現）は、この意義であつて、それ故に先の戦争後に、漢心を借りて象徴とすめらみことをいひ表したことは、結果として幸ひなことに、正しい訳語でした。

［註１］
同号より相当箇所を引用します：

「既に松の枝と松が枝の、ノとガの違ひについては大祓ひのメビウスの環であることを説明した箇 所で説明したところですが、それを思ひ出してもらへば、松の枝よりも松が枝の 方が、松を思ふヒトに松は近く（内部）、さうであれば、高天が原は、高天の原 よりもヒトに日常的に親しく近いといふ感じがあります。といふことは、東の一 の鳥居を東に置いて、太陽の登り照る海の向かうは遥か彼方の南太平洋諸島の日本人のふるさとまでが高・天の原（鹿嶋の地に対して外

部）、他方、この鳥居のこちら側の陸地の、二つの東西の鳥居の間・隙間・余白にある土地は高・天が原 といふ海と二重写しになつてゐる、太古・古代の私たちの、まあ、あへて此の言葉を用ひれば其のやうな、分類になつてゐることが判ります。これが、高天の原と高天が原の違ひです。天はアマですので海のことです。私は「いつの間にか」（超越論）高天が原に住んでゐるのでした。」
（『縄文紀元論』（もぐら通信第１５２号）の「５.２６ 鹿島神宮とは何か：鹿島神宮の位置と東西の鳥居の関係について」）

さて、さうであれば、アメもアマも等価である。

実際、鹿島灘を望む鹿島の砂浜に立つと、昼間にあつてもアメ（天）もアマ（海）も境界なく天地混淆、一体一然である。さうであれば、天の原には天の河の流れてゐるのは自然であり、ことに夜なれば、闇夜に天を仰げば銀河が流れ、同じく夜の海上には天之御中主に照らされて潮（うしほ）の流れが銀色に輝いて道を指し示してゐる様は美しい。天の原には、かくして、天の河が流れてゐる。このやうに、等価交換された世界を、その世界の実在を背景にまた根拠に、タカ-といふ寿辞をかぶせてカミを自然に呼びに掛ければれば、上記のやうに共に高・天原と文字で表示され、それぞれに高天が原となり、高天の原となる。この二つの語は、かくして、鹿嶋の地にあつて、景観としても、また実際寿辞《タカ》の音義によつても結ばれて、同値である。アングロサクソン語族の文法ならば、前綴りが語幹を上廻る働きをすることはありませんが、これは日本語に固有の特性であつて、一見従たるものが主役を裏で演じてゐるといふトポロジカルな（位相幾何学的な）働きを発揮するのです。働きを漢意で機能といふことができますが、同じ概念です。さういへば、同じことが《ヤ》の音義についても云へるのでした。これを、アメリカのユダヤ人の言語学者チョムスキーが、日本語は冗長性のあるredundant・リダントな言語だと私たちの言葉の本質を言ひ当ててくれたことは誠にありがたいことです。欧米の言語学者で日本語の本質を言ひ当てたのは、このユダヤ人だけです［註２］。この冗長性は、わかりやすくいへば二重性ですし、今風の言葉をつかへばバックアップですし、また八咫鏡が鏡であつてさうであるやうにミラーリング・mirroringであるわけですから、太古・古代からの私たちの遠津祖の深い智慧は変はらないのです。八咫鏡を天照大御神から瓊瓊杵尊が受けてアマ・降つて、今日の皇室の宝であることの深い意義と私たちの命が、これで諸事万般に亘つてゐて文字通りに有難いことを思ひ出すことは良いことです。八咫の鏡について天照大神が瓊瓊杵尊にあたへた宝鏡奉斎の神勅にある通りです［註３］。この神勅もまた冗長性・二重性を尊んでゐるからです。すめらみことの万世一系もまた此の冗長性・二重構造化の上に成り立つてゐます。

［註２］
縄文紀元論の「５.２５ 何故私たちは神前で二礼・二拍手・一礼をするのか（１）：コト・タ マ論：理論篇」より引用します：

「何故古事記が私たちの形而上学であるかといふ理由も、日本語の観点から、その文法的際立つた特徴によつて、即ち私たちの言語である日本語によつてさうであるのだといふことは後述致します。一言でへば、西の伊勢神宮の２０ 年毎の遷宮と、ある時まで行はれて行はれてゐた東の鹿島神宮の２０年毎の遷宮 の此の一対が何を意味するのかといふことの解説になります。これが日本語の言 語構造そのものであること、これをユダヤ人の優れた言語学者、安部公房の高く評価した生成変形文法を打ち立てたチョムスキーによつて、日本語に固有の冗長 性・redundancy・リダンダンシーとして明確に指摘されてゐることは、既に『安部公房とチョムスキ（６）』（もぐら通信第７８号）の「４.１ チョムスキー の疑問に回答する：日本語の持つ冗長性とは何か」にて既述の通りです［註 １］。

勿論、チョムスキーは英語の民として当然に、私には理解ができないと率直に語つてゐます。何故なら、チョムスキーは英語といふ主語と述語（正確には目的語）の等価交換の言語ではなく、時間の中で思考するといつも二項対立でものを考へて（これ自体が誤りなのではない）、いづれか一方の極端を選択する世界 で、これを否定して生成変形文法といふ語格を変形自在にマゲたりズラしたりする文法を創造した当人ですから論理として理解はしても、それが生理的な感覚につながらないとふことなのです。私はこれほど正確に日本語の本質であるトポロ ジーと呼ぶならトポロジーの論理に、また等価交換のお祓ひの原理に言及した言語学者を知りません。スイスの言語学者ソシュールも優れた言語学者ですが、あの主観・客観の枠組みの中で、シニファン・シニフィエといふ固定した二項対立概念での説明だけでは、日本語の本質を理解し解説することはできません。この対立する二項の価値を概念の内部と外部で等価交換したらどうなるかに想到したら、チョムスキーの言語論に変形します。

［註１］
チョムスキーの日本語の本質である冗長性に関する議論は次の通りです：

「（４）「例えば入れ子構造が処理にそれほど負荷をかけるならば、なぜ人間言語は入れ子構造を到るところで作り出すのだろうか。日本語の文の埋め込みなどは、入れ子構造であるのみならず （文の内に文を埋め込むのであるから自己埋め込み構造であり、従ってその処理には大きな負荷がかかるが、それならばなぜ日本語の統辞法はそのような処理上不効率きわまりない構造の生成をその中核部分において許し続けているのだろうか。」（同書訳者解説：２０３ページ）といふ問ひに対する答へを示さうとするのが、生成文法だといふことなのです。（傍線は原文傍点）

以上の箇所の論点を抜き出すと、次の二つです。

（１）言語の生成機能とは再帰性のことであるといふ言語の本質にある認識がチョムスキーの言語論の核心にあるといふこと
（２）この言語の再帰性はいつも入籠構造を取るといふこと（例へ ば『カンガルー・ノート』の「存在の存在の存在」といふ３階層の入籠構造のやうに）

この二つのことを踏まへた上で、再度次の疑問を読みますと、

「例えば入れ子構造が処理にそれほど負荷をかけるならば、なぜ人間言語は入れ子構造を到るところで作り出すのだろうか。日本語の文の埋め込みなどは、入れ子構造であるのみならず（文の内に文を埋め込むのであるから自己埋め込み構造であり、従ってその処理には大きな負荷がかかるが、それならばなぜ日本語の統辞法はそのような処理上不効率きわまりない構造の生成をその中核部分において許し続けているのだろうか。」

といふ箇所にあるチョムスキーの疑問は、箇条書きにすると次のやうになります。

（1）一般： 入籠構造が処理にそれほど負荷をかけるならば、なぜ人間言語は入れ子構造を到るところで作り 出すのだろうか？
（2）個別：なぜ日本語の統辞法はそのような処理上不効率きわまりない構造の生成をその中核部分において許し続けているのだろうか？

チョムスキーの疑問は、最初に一般的な問ひを立て、といふことは自分の言語である英語も入籠構造であるとよく知つた上で、次に個別の具体的な、それもチョムスキーの関心を強く惹く例として日本語の例を挙げてゐるといふことがわかります。」

以下重要なチョムスキーの発言に関する分析が続きますが、ここでは省略します。」

［註３］
この天照大御神の御神勅は次の通り：

＜原文＞
　吾兒、
　視此宝鏡、
　当猶視吾。
　可興同床共殿、
　以為齋鏡

＜読み下し文＞
　吾が兒（みこ）、
　此の宝鏡を視まさむこと、
　当に吾れを視るがごとくすべし。
　興に床を同じくし、殿を共にして、
　斎鏡（いはいのかかみ）と為す可し。

　あがみこ、
　このかがみをみまさむこと、
　まさにあれをみるがごとくすべし。
　ともにゆかをおなじくし、とのをともにして、
　いはひのかがみとなすべし。

＜現代語訳＞
　わが子よ、この宝鏡を視（み）ることは
　まさに私（天照大御神）を見るのと同じにしなさい。
　お前の住まいと同じ床に安置し、お前の住む宮殿に安置し、
　祭祀をなすときの神鏡にしなさい。
（「三大神勅（天壌無窮、宝鏡奉斎、斎庭の稲穂）を学ぶ」：https://nezu3344.com/blog-entry-3972.html）

宝鏡奉斎の神勅を読めば、鹿嶋神宮の社殿の向かうに置かれてゐる鏡石といふ石の働きは、八咫鏡と同じ働きであつて、高・天の原を地に写したものが高・天が原だといふことを、この神勅は示してゐます。更に、奥宮にある要石といふ石も、その名前が要であることから、アマとツチの交差点、境界線に置かれた、八咫鏡と同じ働きをする石だといふことでありませう。やはりこれらの石も、どこかの山から切り出して来た其の山のシロ・代（形代）でありませう。これらの石は、二つの高天原の冗長性と二重化を、即ち大倭日高見国ひいては後々までも日本の国を安全保障してゐるわけです。この意義に於いても、本来はこれらの石には注連縄が張られてあるべきところです。後日要石を撮影した動画を見ますと、この石には接して幣が立つてゐますので、小さな柱に幣が垂れてゐるとは、注連縄に付けられる幣と同じで謂はば雷様と同じZigZag模様であり、交差の連続した形象でありますから、八岐・八股のオロチの《ヤ》の形象化であり、豊饒の富の生まれる交差点ですので、結構なことと存じます。対して鏡石の方はどうなつてゐるものか。掲示されてゐる大きな絵図を見ても注連縄も幣も描かれてゐません。鏡は鏡であり、そのまま八咫鏡だから、高天の原を高天が原に、また正反対に互ひを写して二重になつてゐますから、これで良いのでせう。

さて、かうしてみれば、タカとは、源流に遡るとか、本源の場所に上がつてゆくといふことであり、反対に降るとか（例：天降り）、下がるとかといふ表現は、今でも上京するといひ、上るといひ、他方下京といはうと思へば云へるでせうし、確かに降るといつてゐて、鉄道の上り下りは今でも此の意味で使はれてゐます。別に高いところにあるから高天原なのではなく、そのやうな源流・本源に遡り向かへばタカ、反対の方向に降れば、確かにアマ（海・湖）から降るといふ天降りになります。タカに高の文字を当てた古事記の用語法に従へば、理屈の上では形式的に、降りは低といふ文字を当てることになりますので、これが高天原が天（てん）にあるといふ大きな誤解の生まれた原因です。私たちはあくまでも、日本語に、やまとこころに徹しなければ正しくものを考へることができません。幾ら漢字の字義と語義を詮索しても、わたしたちの心からみれば、それは検討違ひ見当違ひなのです。初心に戻ることが大切です（といひながらショシンもタイセツも漢意を借りてゐるわけですが）。

ですから、ここでかうして高天が原の東西軸に海辺に一之鳥居があるのであれば、南北軸の鳥居もまた海辺に立つてゐて、この四辺形で囲まれる場所は島であつて、これが鹿嶋、即ちカミのシマ、カ・シマと呼ばれたシマなのではないかと考へることができます。これは古い地図を見なければわかりませんが、もしさうでないとしたら、同じ陸地の上でも《ヤ・シロ》の立つの位置は、境界点・境界線・境界面であり、《ヤ・シロ》自体が境界体であり、交差体でありますから、まあ今風の若者言葉でいへばパワー・スポットで（スポットといふ地点にパワーがあるとはそこが交差点だといふ意味です）、従ひ地（つち）の上で其処が何か

と何かの境目になつてゐる筈です。《ヤ》の音義が現れてゐる《シロ》です。この二つの可能性の吟味は後日の課題とします。

この章の最後にもう一つ、北の一之鳥居に戸隠神社があるといふことに関連して、高天原のある大倭日高見国の生活圏に北海道が入つてゐるといふことを此処高天原にゐて知りましたので、小さな事ですが、この事実をお話してをきたい。

セイコマートといふ北海道の地場だけで終始してゐる資本により経営されてゐる筈の此のコンビニエンス・ストアのチェーン店が、鹿嶋市内に四つも飛び地でもあるかのやうにあるのです。これはやはり陸地続きでやつて来たのではなく、港港の繋がりで、函館・苫小牧・釧路・根室といつた港との往来で鹿嶋の地にやつて来たことは確実です。同社のウエッブサイトを見ますと、全国展開はしてをらず、北海道の他は関東に茨城と埼玉二県に店を構へるのみです。魚の委託加工で商売の繋がりが、商品の裏の販売社（これはセイコマート）と製造業または加工業者（これは茨城と複数の近県に及ぶ）の住所を読むと明らかです。かうしてみると、他の県にも、野菜繋がり、果物繋がりもある筈で、鹿嶋の場合にはコンビニエンス・ストアが、魚繋がりといふわけです。

５.３１　鹿島神宮を初めてお参りした時に八咫烏の現れたこと
５.３２　高天原での生活は如何なるものか
５.３３　日高見国と日向国の関係：三浦一族の活動範囲
５.３４　日高見国と播磨国の関係：ダイダラボッチ
６．　国学Ｉ（１８世紀）と欧米（２０世紀）の言語理論対応表
７．　締めにするか御開きにするか、最後の章の結びはメビウスの和

（続く）

編集後記

●巻頭詩（３８）：『孤独より』其の八：作家としてよに出た後の安部公房はほとんで孤独といふ言葉を口にしたり書いたりしてゐないと思ひます。しかし、この言葉こそは安部公房文学のキーワードの一つです。自分自身で独自の実存主義と人から誤解されて呼ばれる思想を打ち立てた安部公房です。孤独でないわけがありません。●『都市への回路』論（８）：（８）人間の生理：問題下降と生理感覚と直喩の関係が次回で一層明らかになります。もつとも直喩は一度最初のところで既に地下の配管と地上の都市との関係で論じてはをりますが。これを基礎に次回を考察します。●ＳＦで思考するための本棚（２）：エドガー・アラン・ポー：これでいよいよポーとコーボーの関係は明らか。既に第３号の時点で書いたポーと安部公房関係論がこれほどできてゐたとは我ながら驚きでした。
●遁走倶楽部（１）：エピチャム語から本邦初の翻訳　Ｓ・カルマ氏［翻訳］岩田英哉；誰が作者かはご想像下さい。前回の読書会で編集子の小説が読みたいとの声があり、書きました。●私の本棚（４０）：西村幸祐著『報道しない自由』を読む：いよいよ２０世紀マス・メディアの正体が暴露されてしまつた。ヒットラーはドイツ国民に対してマス・メディアは共産主義であり、これはユダヤ資本が金を出してゐるからだ、ユダヤ人を絶滅するのだ！と叫んだのが、首相就任演説の壇上でした。二十一世紀もユダヤと資本の関係は変はらない。２０世紀と異なることはイスラエルができたことで、これからこのユダヤ人国家は政治の上で重要な役割を演じることになるでせう。●ネット・モナド論（２５）：グレートリセットとは何か（３）：ダボス会議の日本国内の手先機関であるpartnership

差出人:
安部公房の広場
〒182-0003東京都調布市若葉町
「閉ざされた無限」

組織とはどれか、人は誰か？：もはやはっきりと書く以外にはない。続く２つも同じです。●ネット・モナド論（２６）：ジョージ・ソロスの2022/03/11付プロジェクト・シンジケート誌上に発表の寄稿文『ウラジーミル・プーチンと第三次世界大戦のリスク』を読む：同上●ネット・モナド論（２７）：プーチンは何を考へてゐるか：これも同上。マス・メディアには無い私の仮説であり意見です。情勢を観察しませう。●縄文紀元論：Topologyで日本人を読み解く（３２）：５.２.８　鹿島神宮とは何か２：鹿島神宮の位置と東西南北の鳥居の関係について：まさか高天原のことがここまで明らかになゐとは。日本国内にても事態の急変あることでせう。政治・経済・文化の領域で。

安部公房の広場
連絡先：eiya.iwata@gmail.com

【もぐら通信の収蔵機関】

国立国会図書館
「何處にも無い圖書館」

【もぐら通信の編集方針】

１．もぐら通信は、安部公房ファンの参集と交歓の場を提供し、その手助けや下働きをすることを通して、そこに喜びを見出すものです。
２．もぐら通信は、安部公房という人間とその思想及びその作品の意義と価値を広く知ってもらうように努め、その共有を喜びとするものです。
３．もぐら通信は、安部公房に関する新しい知見の発見に努め、それを広く紹介し、その共有を喜びとするものです。
４．編集子自身が楽しんで、遊び心を以て、もぐら通信の編集及び発行を行うものです。